# JISA PESS

Japan Network Security Association



Vol.25 March 2009

## **CONTENTS**

ご挨拶

小況の時こそ新3Kを	 1
det de	

## 特集

- 日本セキュリティオペレーション ......3事業者協議会の活動報告
- サイバー大学の情報セキュリティの …… 7 講義について

## JNSAワーキンググループ紹介

•	情報セキュリティ対策マッフ検討WG	10
•	情報セキュリティ基本教育実証WG	12
_=	三个米で切ぐ	4.1

	471	
書籍ご紹介		16

JNSA会員企業情報	 18

JNSA云貝止未间報	 18
イベント開催の報告	 20

イベント開催の報告	20
「インターネット安全教室」	20

		-		_	
事	務	司お:	知らせ		 32

JNSA年間活動 ...... 40

# 情報セキュリティプロフェッショナル教科書

佐々木 良一 監修 日本ネットワークセキュリティ協会教育部会 著

株式会社アスキー・メディアワークス 発行 ISBN978-4-04-867782-0 B5 変型判、720 ページ

定価:本体 4,700 円+税

## 情報セキュリティ専門家としての初学者が 一通りの知識を得られるように構成されています

- ●「スキルマップ」から改訂された最新の「セキュリティ知識分野: SecBoK」 (Security Body of Knowledge) に基づいています
- ●情報セキュリティ技術者に必要な技術要素を網羅しています
- ●知識分野と章構成の対応表が付いています
- ●章末には確認用の試験問題が付いています
- ●広範な分野をわかりやすく解説しているので、研修教材や独習教材として最適です

序章

第1部 脅威

第1章 脅威の種類とリスク 第2章 攻撃対象、攻撃手法 第3章 脅威の種類とリスク

**第2部 ネットワークの防御** 第4章 ネットワーク 第5章 ファイアウォール

用り早 ノアイアリ 第6章 侵入検知

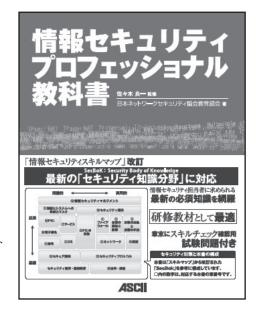
**第3部 コンピュータの防御** 第7章 OS 第8章 サービス

第 9 章 PC の防御 **第 4 部 情報の防御** 

第 10 章 暗号 第 11 章 認証、電子署名、PKI 第 12 章 セキュリティプロトコル

第5部 管理・開発・運用
 第13章 情報セキュリティマネジメント
 第14章 セキュア開発
 第15章 セキュリティ運用

第6部 コンプライアンス 第16章 法令・規格



## 不況の時こそ新 3K を

株式会社ラック サイバーリスク総合研究所 教育事業企画部 部長 JNSA 幹事

情報セキュリティ教育事業者連絡会 (ISEPA) 代表 与儀 大輔



2月3日に情報セキュリティ政策会議が開催され、第2次情報セキュリティ基本計画が公開されました。パブリックコメントはJNSAも情報セキュリティ教育事業者連絡会(以下ISEPA)も提出し政府の見解も示されました。特筆すべきは第1次情報セキュリティ基本計画では「事故ゼロ」を目標とする政策が推進されましたが、第2次では「事故前提社会」と記載されたことでしょう。これはインターネットが社会インフラとして広く普及したことに起因すると思います。

単純比較ではお叱りを受けるかと思いますが、自動車を見てください。交通のインフラとして広く普及すると共に、残念ながら交通事故で死亡する方は年間約6000人と言われます。便利な反面、事故を起こせば人命を奪ってしまうのが自動車です。その為に社会インフラとして国が道路や法律、警察による運転免許の発行、違反者の取り締まりなどの環境整備を行い、自動車会社は衝突安全性の向上など人命に配慮した研究開発に努め、学校では交通安全教室など教育で児童に交通ルール遵守を教え、保険会社は損害保険により自動車社会を支えています。

つまり事故前提社会として成熟してきていると言えます。

インターネットに目を向けると増加する不正アクセスや情報漏洩もさることながら、ネットを利用した大麻や児童ポルノ販売などの違法行為、プロフへの書き込みによるネットいじめに起因する児童の自殺など目を覆いたくなるような事案も少なくありません。

情報セキュリティ確保には場当たり的な対症療法ではなく、事故前提社会と捉え官民が 一体になり推進する必要があると思います。

第2次情報セキュリティ基本計画では情報セキュリティ人材育成についても官民一体となって推進すると記載されています。ISEPAでは人材を財産ととらえ、人財と定義して人財育成推進に関わる取組みを業界横断的に実施すると共に、幅広く情報発信を行っております。

ご支援を頂いているJNSAの皆様はじめ業界関係者の皆様に、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

米国発金融不況で日本経済も未曾有の危機を迎えており、企業の決算発表は黒字の会社 を探す方が難しいほど「赤字転落」の文字が新聞を覆っています。

不況になって真っ先に削られるのが経費(交際費、交通費)、研究開発費、教育研修費の 3 K だと言われます。

しかしながら不況の時ほど「米百俵」の精神で人材育成を行うべきではないでしょうか。 ご存知の方も多いと思いますが、長岡藩の支藩である三根山藩が百俵の米を窮状に喘ぐ長 岡藩に送った時のこと、当時の長岡藩大参事である小林虎三郎は、百俵の米を皆に分け与 えることはしなかったそうです。困窮のあまり怒り狂った家臣達が刀を振りかざして「米を だせ!」と詰め寄った時に「百俵の米なんぞ、皆で食ってしまえばそれでおしまいである。 それよりこの米を売って得た金で明日の長岡を救う若者を教育しようではないか、そうす れば何千何万俵になってかえってくる」と藩士を説いたそうです。

私は情報セキュリティ業界では珍しく、保健体育の教員免許を取得しています。学生時代はアメリカンフットボールに明け暮れ、甲子園ボウルにも出場し将来は体育の先生になるのが夢でした。残念ながら少子高齢化で教員採用枠が減少し、夢を諦め電機メーカに就職しました。情報セキュリティに触れたのは2000年からですが自身のスキルアップの為に情報セキュリティを基礎から学び、多様なお客様のニーズにも対応し信頼感を高める為にISMS審査員やCISSPなどの知識を客観的に証明出来る資格も取得しました。それにより「セキュリティを知っている」から「セキュリティが出来る」へと変わり、自身が対応できる職務範囲が大きく広がりました。自身の経験も踏まえて情報セキュリティ人財育成には適切な教育が欠かせないと思います。

不況のときこそ「雇用の確保」「研究開発」「教育研修」の新3Kが必要ではないでしょうか。

企業経営が厳しい中ではありますが、人は城、人は石垣、人は堀と申します。経営者の 皆様には是非とも人財育成の為に必要な教育研修費を確保頂けますようお願い致します。

# 日本セキュリティオペレーション 事業者協議会の活動報告



株式会社ラック 武智 洋

## 1. はじめに

2008年6月13日 JNSA総会にて日本セキュリティオペレーション事業者協議会(Information Security Operation providers Group Japan, 略称名:ISOG-J)が発足いたしました。発起人10社からスタートし約10ヶ月が過ぎ、2009年2月時点で会員団体は17社となり、活発な活動が行われています。今回はこのISOG-J について、発足経緯および現在までの活動についてご紹介したいと思います。

## ●発足にいたるまで

一般的な意味でセキュリティが重要だと言うことに異論を挟む人はいないと思います。また、セキュリティのレベルを維持していくための日々の運用に関しても、多くの人が重要だと言ってくれるのではないでしょうか。 以前、研究としてセキュリティ監視システム運用に関係する仕事をしており、日々、セキュリティに関わるシステムの運用ってどうしたらよいのだろうと悩んでおりました。同僚と雑談する中で確認したのは、

- そのセキュリティに関わる運用(セキュリティオペレーション)がどんなものなのか、明確な定義がない
- セキュリティオペレーションに携わる人たちがどのように働いているのか明確なイメージがない
- 何より、いろいろ相談したくても、セキュリティ オペレーションに関わっている人たちのコミュニ ティがない

ということでした。で、ある日、ISOG-Jのきっかけ になることを思いついたのです。

「セキュリティオペレーションに携わっている人たち と意見交換をしてみよう!」

仕事柄、この分野の知り合いは多かったので、その中から、問題意識が高く、社外活動も活発な人た

ちに 2007年秋に相談をしました。順次、人が加わり、 様々な話をするうちにセキュリティオペレーション に関係する事業を行っている人たちが集い、問題解 決を行えるような場が必要という結論に達しました。 そして、最終的に10社から発起人が集まり、ISOG-J を設立することになったのでした。

## ●設立に当たっての問題意識

設立に向け発起人の間でセキュリティオペレー ションに関して話をしました。

例えば、これは私自身の話ですが、ある仕事でセキュリティオペレーションセンター (SOC)構築の RFPを書こうとしたときに困ったのは、SOCの機器やシステムの要件はある程度書くことができるが、運用の部分の要件が上手く書けないというものでした。

SOCの運用ですので、24時間365日稼働というのはわかるのですが、それ以外SOCの運用に関して基準が明確でない。

また、運用に携わる人材の要件を考えたときに、単にオペレータあるいは、アナリストと呼んだとしても、それらの人材がどのようなスキルセットを持つべきか、どのようなレベルの人が必要であるのかなど、基準となるものが無いということでした。

SOC構築のRFPを書くというのは、あまりないことと思いますが、一般に企業の情報システム担当がセキュリティに関する運用をアウトソースしようとした場合にも、同じようなことが起こるのではないかと思います。

また、ユーザが様々な事業者から出ているサービスを比較することが出来るようなセキュリティオペレーションサービスマップも必要ではないかということになりました。

こういった話し合いをする中で、セキュリティオペレーション事業者の各社もさまざまな問題意識や解決案を持っていることや、セキュリティ情報を扱う性格上、情報共有が難しいジレンマなどが見えてきました。

このような議論の中、ISOG-Jの活動で扱うべき課題として次のようなものが挙がってきました。

- 1)セキュリティオペレーションとは何なのか
- 2)ユーザにセキュリティオペレーションを使っても らうために必要な情報は何なのか
- 3)セキュリティオペレータが持つべきスキルとは?
- 4)セキュリティオペレーションの重要性をもっと世の中の人に知ってもらうにはどうしたらよいか

これらの問題意識を元にいくつかのワーキンググループを作り活動を始めました。

## 2. ISOG-J 設立経緯と目的

## 設立経緯

電子メールの普及、インターネットバンキング、電子商取引など、我々を取り巻くIT環境は人々の生活、企業活動、各種社会活動に無くてはならない基盤となっています。基盤化したIT環境が停止することは許されず、"止まらないサービス"を実現することへの要求がますます高まっています。また、不正アクセスやサイバー攻撃は多様化し、その手口もますます巧妙になりつつあります。

ITシステム運用においても、ITシステムのセキュリティを確保するためのオペレーションは各組織の業務として必須となっています。

各企業等においては、セキュリティポリシー策定など制度面の対策の整備が進んでおり、そのなかで、セキュリティに関するオペレーションも対象となっています。しかし、実際のセキュリティオペレーションを各組織でしっかりと行うことは容易ではない状況といえます。

原因としては、人材確保が難しいこと、セキュリティオペレーションをどのようにやればよいのか、どこまでやるべきなのかについての具体的な指針がないことなどがあります。

また、セキュリティオペレーションのアウトソースに関しても、セキュリティオペレーションアウトソースサービスに関しての情報がサービス事業者毎に表現が異なっており、一様に比較検討しにくいこ

と、また、事業者側としても、サービスの内容と品質を規定する基準が整備されていないことなどの問題点があります。

このようなセキュリティオペレーションに関する 現状と課題を改善するためには、セキュリティオ ペレーションとはどういうものか、あるいは、どう あるべきかについてユーザおよびセキュリティオペ レーション事業者に共通の理解を持てるようにしな ければなりません。

また、利用にあたっての様々なガイドラインや指標を策定していくことも必要と考えます。

しかしながら、これらのことを議論し、具体的に 問題解決を行う場がない状況です。このような状況 を鑑み、現在、セキュリティオペレーションサービ スを提供している事業者が結集して、セキュリティ オペレーションの必要性を社会にアピールし、かつ、 諸問題を解決していく場として、本組織の設立を行 います。

### 目的

日本セキュリティオペレーション事業者協議会は、セキュリティオペレーション技術向上、オペレータ 人材育成、および関係する組織・団体間の連携を推進 する事業を実施することによって、セキュリティオ ペレーションサービスの普及とサービスレベルの向 上を促し、安全で安心して利用できるIT環境実現に 向けて寄与することを目的としています。

## 3. 参加組織

## 会員(発起人)

株式会社アイアイジェイテクノロジー

株式会社インターネットイニシアティブ

エヌ・アール・アイ・セキュアテクノロジーズ株式会社

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ

日本電気株式会社

日本電信電話株式会社

株式会社日立情報システムズ

## 富士通株式会社

三井物産セキュアディレクション株式会社

株式会社ラック

#### 会員

NECネクサソリューションズ株式会社

エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社

NTT コムテクノロジー株式会社

日本アイ・ビー・エム株式会社

株式会社富士通ソーシアルサイエンスラボラトリ

株式会社ブロードバンドセキュリティ

株式会社Kaspersky Labs Japan

## オブザーバー

総務省

経済産業省

## アドバイザー

北陸先端科学技術大学院大学 篠田陽一教授

## 4. WGの紹介

## セキュリティオペレーションガイドラインWG

リーダー: ブロードバンドセキュリティ 許 先明 サブリーダー:

## IIJ 齋藤 衛

三井物産セキュアディレクション 青木 歩 セキュリティオペレーションサービスの利用に関するガイドラインの作成を目標とするWGです。

一般に、セキュリティオペレーションに関するサービスは、ネットワークサービスやサーバーサービスなどと異なり、どのようなサービスが提供され、どのような機能があるのか等の情報が少なく、サービス導入に当たってアウトソースする場合、RFPを書くことが難しいという現状があります。本WGではこの問題を改善し、サービス導入やRFP作成の際などに利用するための指標となるようなガイドラインを作成することが目標です。

当WGでは、まずセキュリティオペレーションサー

ビスに関するサービスマップの作成をすべく活動を 行っており、今年度の成果として提出する予定です。 来年度より、サービスマップを基にガイドラインに 関する検討を始める予定となっております。

## セキュリティオペレーション技術WG

リーダー: ラック 川口 洋 サブリーダー:

> NECネクサソリューションズ 中西 克彦 日立情報システムズ 浅野 豊

セキュリティオペレーションに関わるエンジニア の技術力向上、エンジニア同士の交流を目的とした WGです。

セキュリティオペレーションといってもかかわっている人の仕事の内容はさまざまであり、抱えている課題も違います。

それぞれのセキュリティオペレーションの現場で 奮闘している技術者の課題を解決し、技術力を向上 していくことが目的です。

これまでにWGの会合を4回行いました。会社見学、 セキュリティ製品の製品説明会などと行いました。

また、WGの会合の後には必ず懇親会を行っています。参加者同士の交流を重ねるうちに、お互いの課題や業界の課題についての認識を共有することができればと思っています。

今ではこの懇親会自体がWGのメインであると言われているくらいに恒例となっています。

セキュリティオペレーションに関わる方のご参加 をお待ちしています。

## セキュリティオペレーション関連法調査WG

リーダー: 富士通 出口 幹雄 サブリーダー: NTT 雨宮 俊一

ユーザ・セキュリティオペレーション事業者がそれ ぞれの立場で遵守すべき関連法規について整理・情報 発信することを目的としたWGです。

セキュリティオペレーションといっても不正アクセス対策・ウィルス対策・情報漏洩対策・迷惑メール対策等さまざま種類があり、サービス実施する内容によって意識しなくてはならない法律が変わってきます。

また、ユーザ・セキュリティオペレーション事業者の業種・業態によって監督官庁が違ったり、業界固有ガイドラインがあったりと遵守すべきものが異なるといった点もあります。

このような環境下でセキュリティオペレーションの関連法規をユーザ、事業者が共通の認識を持ちそれぞれが遵守すべき事を相互に理解しあうことでセキュリティオペレーションの認知度向上にもつながることを目指しております。

興味のある方の参加をお待ちしております。

## **セキュリティオペレーション認知向上・普及啓発WG** リーダー: ラック 武智 洋 サブリーダー:

NTT 渡瀬 順平

日立情報システムズ 多田 昭仁

セキュリティオペレーション事業をより皆さんに 知っていただくことと、この業界に関わる人財の地 位向上を目指した様々な活動を企画することを目標 としたWGです。

ISOG-Jには、セキュリティオペレーション事業を通して、ユーザ組織のセキュリティレベルを向上することを目標としている事業者が集っています。セキュリティオペレーションへの我々の熱い思いを知っていただくには、まずは、ユーザにセキュリティオペレーション事業という業界そのものについて知っていただく必要があると考えています。また、セキュリティオペレーション事業の核となるのは、オペレータやアナリストなどの人財です。現在、日々セキュリティレベル向上のために頑張っているオペレータがいることを世の中の多くの方に知ってもらうことも重要なISOG-Jの役割だと考えています。

こういったことを目的に、今年度は、まずは ISOG-J 内での活動を中心として行ってまいりました が、来年度からは外部に向けての積極的な活動を行っ ていく予定です。

## 5. イベント報告

- ■JNSA 2007年度活動報告会(2008年6月13日)
  - 「日本セキュリティオペレーション事業者協議会 (ISOG-J) 発足について」報告。
- ■JNSA主催「Network Security Forum 2008」

(2008年12月17日)パネルディスカッションを実施。 「最新セキュリティ事情とセキュリティ運用の勘所 ~セキュリティオペレーションの現場から~|

- ■ラックJSOC見学
- ■富士通館林センタ見学
- ■NTT武蔵野研究所見学

## 6. 今後の展開

今後もWG主体による活動を継続していくと共に 会員団体、オブザーバー、アドバイザー、外部専門 家を招いてセキュリティオペレーションに関する講 演会も計画しています。

## 7. 連絡先

JNSA 事務局(E-Mail): isogj-info@jnsa.org

## 8. まとめ

本協議会の設立に関しては、関係各位の協力を頂き、活動を開始することができました。

各WGの活動も活発に行われ、活動初年度の成果物としていくつかのアウトプットも報告できる見込みです。

今後ともセキュリティオペレーション事業者が ISOG-Jとして一丸となり、安全で安心して利用でき るIT環境実現に向けて努力していく所存です。

引き続きの関係各位のご支援、セキュリティオペレーション事業者の参加をお願い致します。

# サイバー大学の情報セキュリティの 講義について

株式会社ディアイティ JNSA 安田 直



サイバー大学 IT 総合学部長 石田晴久(中央) IT 総合学部教授 安田 直 (右) IT 総合学部准教授 園田道夫 (左)

サイバー大学が開学して2年が経ちました。IT総合学部長として、元JNSA会長の石田晴久先生が就任され、JNSA関係者から安田氏と園田氏が情報セキュリティに関する講義を担当しており、JNSA顧問の前川氏もIT総合学部の教授をされています。また、JNSA会員の若手の方も受講生として講義を受講しています。お互いに直接的な関係は無いものの、人と人のつながりで深い関係にあるサイバー大学について、関係者に集まっていただき、座談会を行いました。その時の記録をご紹介します。

(石田) サイバー大学にはIT総合学部と世界遺産学 部がありますが、IT総合学部を作った理由は、ソフ トバンクからの要請があったからです。世界遺産学 部だけだとソフトバンクがやる理由が薄いというこ とでIT総合学部を併設しました。私が考えたのは、 3本くらいの柱を立てたいということです。1番目 はコンピュータやソフトウエア関係で、技術者が足 りないのでもっと増やしたいということ、2番目は インターネット関連で、この分野もまだまだ技術者 が少なく、特にセキュリティの分野が重要で、この ためにやすだ先生と園田先生に来てもらいました。 お二人ともJNSAがあったからこそというわけです。 3番目はコンピュータやインターネットを使うビジ ネス関係で、これから起業して独立したい人を育て たい、ということです。最初から予想していたのは 高校卒業してすぐサイバー大学に入学する人はあま り居ないだろうということです。遊びの要素はほと んどありませんが、働きながら学習することができ るので、社会人が中心になるだろうと思っていまし た。もうひとつ他と違うのは株式会社立としたこと です。普通は学校法人ですが株式会社立としたほう が投資してもらうことにより機動的に動けるだろう ということです。それから、科目履修生という、自 分の学習したい科目だけお金を払って勉強すること ができる仕組みがあります。授業料は年間いくらで はなく、1単位21.000円としているので、必要な単 位数だけ、本当に受けたい科目だけ勉強できます。 このため、修学年限も最短3年から最長12年間で卒

業することができます。社会人など仕事と両立しやすいように考えています。また、学習の機会をできるだけ大勢の人に提供したいということで、勉強したい人はどなたでもどうぞというポリシーです。障害を持っている人や入院中の方、海外に住んでいる方も勉強ができます。家庭の主婦や引きこもり・登校拒否などの方々にも勉強の機会を与えたいということです。従来の大学の補完的な役割を持たせて、大学の門戸を大きく開いたということが大きな特徴になっています。

それでは、やすだ先生、園田先生の授業内容について簡単にご紹介ください。

(やすだ)情報セキュリティはいろいろな切り口があるので、園田先生や他の科目との分担も考えています。私のほうは広くものを見られるような、どちを行うとビジネスにも近い部分、マネジメントを行う人が技術を理解できる、技術がわかる人がなったないます。内容的には技術的にかなりまっな部分にスポットをおしいおかるというような部分にスポットをおいます。内容的には技術的にきるだけ、と考えています。内容的には技術的にきるだけ、と考えていまかもしれないけれど、でもますでもあるからない、普遍でやってきた人、少しやってもた人には整理をでやってきた人、いてきた人には整理をでやってきた人にはを関わると思うのキャリアを作るは自分のます。具体的な技術的な内容を考えています。具体的な技術的で、両方間田先生のほうでも担当していると思うので、両方前でもらえれば、ITや情報セキュリティの一通りが

マスターでき一人前になれることを目指しています。 私の担当科目は、情報セキュリティ概論と情報セ キュリティ演習、情報セキュリティ階層概論と情報 セキュリティ階層演習、セキュアソフトウェア設計 開発手法概論とセキュアソフトウェア設計開発手法 演習です。内容は、ソフトウエアを造るときにどう 考えるか、設計とかアイディアをどう仕様化するか など、要求仕様から概要設計などでセキュリティが 考えられていないことが多いので、この部分の理解 を深めてもらいたいと思います。また、プログラミ ング言語にあまり依存しないで、アルゴリズムや考 え方を身に付けて欲しいので、できるだけ言語に依 存しない内容を考えています。とはいっても、Web の例題ではPerlなどを実際に使ってみようとも思っ ています。マネジメント系といってもISMSやポリ シーを作る、ルールを作るようなコンサルテーショ ン的な内容は他の講義でも取り上げているので、あ くまで技術に立脚した考え方を学んでもらいたいと 思っています。IETFやISO, ITU-Tなどの国際標 準の状況も取り入れたいと考えていますが、手順や 個々の内容の詳細ではなく、規格作成の考え方、何 を決めているのか、自分たちの開発とどう関わるの かなどを知って欲しいと思います。実務的には業務 分析から情報セキュリティが関わってくることを伝 えたいと思います。情報セキュリティ階層概論は、 最初に作った情報セキュリティ概論がIT系を主な業 務とする情報セキュリティの専門家を育成するため の内容で一般のユーザや初めて情報セキュリティに 触れる人には若干難しかったため、どちらかという と今までエンドユーザだったけれどこれから情報セ キュリティについて更に学びたい人を対象にしてい ます。エンドユーザのままで満足な人は大学に来な いでしょうから、大学で更に学びたい社会人や高校 新卒者などのレベルを揃えるための基礎知識を学べ るように考えています。

(石田) 社会人が多いことを考えると必要な講座ですね。社内教育にもよさそうです。それでは、園田 先生の講義について教えてください。

(園田) まず基礎の方ですが、情報セキュリティ技術の基礎と、現状と課題という内容を担当しています。先ほどやすだ先生からもお話があったように、私の方がどちらかというとテクニカルな内容に

フォーカスして、技術的な部分をどう読み解いてい くか、というところをベースにして組み立てていま す。技術的なキーワードで言えば情報セキュリティ とか、サーバ、インフラの管理とかシステムの話が 比較的多く、結局どんな仕組みがどんな対策になっ ていて何が足りないからセキュリティが危ないの かを説明しているつもりです。もうひとつ、先ほど ISMSなどの話も出ましたが、社内や組織内のルー ルをどうやって作っていったらよいかについても触 れています。技術的なバックグラウンドがわかって いないと、ルールや手順の持つ意味や効果もわから ないと思うので、それらを両方扱う基礎講座を作っ ています。出てくるキーワードを少し細かくいうと、 ハニーポットやハニーネット、テスト手法やハッキ ング手法などにも一部触れています。よくあるネッ トワークセキュリティ、ルールや新しいトピックス も入れています。専門課程もその延長線上にあり、 現場でどういうふうに生かして深めてゆくかという ことで作っています。また、セキュアプログラミン グについてもフレームワークを使ってもっと簡単に できないかがテーマになっています。技術的な専門 用語に関わる部分にフォーカスしているので、やす だ先生の講義と両方受けると良いのではないかと思 います。

演習も大体同じような感じですが、攻撃のやり方 や何が原因かなどについて少し具体的に課題を出し ています。ごく簡単なC言語のプログラムを用意し て、バッファオーバフローをさせてどう直すのが良 いか、あるいは、パケットキャプチャデータを見て 何をしているのかを解析してもらうなどをやってい ます。パケットキャプチャは嵌る人が出てきて面白 いです。シンプルなポートスキャンやバッファオー バフロー攻撃、Web攻撃、これらが複合していろい ろなプレーヤーが入り乱れているところで、登場人 物がそれぞれ何を意図して何を行っているのかを解 析することもやっています。難しいという方もいま すが、フォローのための資料を出しており、理解し たようなレポートを書いてもらえているので、わかっ てもらえているのではないかと思います。パケット 解析のような具体的なデータを見ると嵌る学生さん もいて、1学年に何人かそういう学生さんがいれば成 功と思っています。実際に嵌ってもっと課題を欲し いという学生さんもいます。私も年々課題を溜めて いって、どんどんやれといって配っています。嵌る

きっかけをどうやって作るかを考えることは、研究のテーマを見出すきっかけにもなると思っています。 嵌る率は体感で三分の一くらいはあるので、その中から3年で卒業したいという人も出てきています。

(**石田**) サイバー大学の方式でも十分勉強はできるのですね。

(園田) できますね。先生方も結構間口を広げるとともに奥行きも確保しておられるので、学生が自分でどんどん働きかければ引き出しが出てくる先生が多いと思います。自分で勉強するのであれば環境として躊躇せずに食い付いていけばスキルアップできるでしょう。

(石田) 園田先生にはサイバー大学のコンピュータ 環境を作る学術委員をやってもらっていますね。

(園田) 今、仮想環境でやっていて、自分としてもとても勉強になっています。IPアドレスしかないのに、毎日ひっきりなしにアタックが来ています。学生さんが世界中に居るので、特定のアドレスをフィルタすることはできませんし、受けざるを得ないのです。このあたりは学生さんと一緒に考えていくと面白いかもしれません。いま、仮想環境で外部と隔離した環境を作っています。

(やすだ) 私もサイバー大学のCGIを使っているページを教材に使って解析してみなさいという課題を出しています。CGIを使ったHTMLを始めてみましたという学生さんも居ますが、CGIのHTMLでの使い方を一通り説明すると、初めてCGIの仕掛けがわかった気がしますという方も出てきています。

(石田) 私もパソコンの歴史という講義を持っています。装置などは写真などでしか見せられませんが、Intelの4004の実物を見せたり、ASCII創業者の西和彦氏をゲストスピーカーにお招きしたりといった臨場感も出しています。よそで見られないようなことを見せるのも大切だと思います。

ところで、やすだ先生はJNSAではどのようなことをされているのですか?

(やすだ) 現在はJNSAの主席研究員と教育部会の部会長をしていますが、事務局として技術部会や政策部会等々のワーキンググループ(WG)に出席して、各WGの議論の内容を見て関係がありそうな議論を紹介しあったり、全体を見ながら活動の相互交流をお手伝いしたりしています。教育部会の方では、遠隔授業の実証実験WGや情報セキュリティ教科書の作成WGなどを行っています。

(石田) 園田先生はJNSAではどのようなことをされているのですか?

(園田) 私も研究員という形で関与させてもらっていますが、今は休眠中になってしまっているハニーポットWGのリーダをやっています。これは近々再開する予定です。あと、教育部会の情報セキュリティ基本教育実証WGにも参加しています。

(石田) サイバー大学のコンテンツを利用してもらえるような大学はまだないですね。韓国ではずいぶんコンテンツが流通しているようですが、日本ではあまり関心がないようです。

(**やすだ**) 大学だけではなく、社内教育用にも効果があるのではないかと思います。

(石田) 行政の制限もあるようですが、エクステンションセンターのような形でタイムリーな企画を実現する計画です。これからもよろしくお願いします。

ということで、座談会は終了しましたが、JNSA の周辺でのパブリックな活動として、サイバー大学を始めとする大学などでの教育にもいろいろな関わりを持ってきています。直接的な活動ではありませんが、このような相互関係も生かしつつ、更に大きな活動を実現できればすばらしいと思います。皆様のご意見やアイディアをいただければ幸いです。

石田先生は3月9日に急逝されました。

謹んでお悔やみを申し上げるとともに、ご生前のご厚情に深く感謝し心からのご冥福をお祈りいたします。

## JNSA ワーキンググループ紹介

## 情報セキュリティ対策マップ検討 WG

WG リーダー 富士通株式会社 奥原 雅之 WG サブリーダー 富士通株式会社 長谷川 喜也

## ■ WG の目的・概要

情報セキュリティ対策マップ検討WGは、技術部会に所属するWGです。組織全体の情報セキュリティ対策の状況を確認するための「情報セキュリティ対策マップ」を作成するための手法、記述モデル、および汎用的な標準情報セキュリティ対策マップ案を開発することを目的として2009年1月に活動を開始しました。

## ■ 情報セキュリティ対策マップとは

情報セキュリティ対策マップとは、一言で言えば「情報セキュリティ対策の全体像を把握できる地図のようなもの」です。ある組織にとって最適な情報セキュリティ対策を検討するためには、対策するべき情報セキュリティの全体像を正確に把握できるドキュメントがあると大変便利です。これまでも、このような情報セキュリティ対策のマップを作る取り組みは多方面で行われてきており、その目的に利用できる既存コンテンツも多数あります。例えば、以下のようなコンテンツは、情報セキュリティ対策マップに近い使い方をすることができます。

- JIS Q 27002 (ISO/IEC 27002)「情報セキュリティマネジメントの実践のための規範」
- 経済産業省「情報セキュリティ管理基準」
- \* 米国 NIST SP800-53「連邦政府情報システムにおける推奨セキュリティ管理策」
- 各ソリューションベンダーの商品体系

しかし、これらのコンテンツでも組織における情報セキュリティ対策に対するニーズを完全に満たすことはできません。例えば、これらのほとんどは「一つのリスク」に「一つの対策」をマップするような構造で書かれています。しかし、組織が持つリスクに対する現実の対策は、複数の対策が補完しあったり、何かの対策が別の対策の前提になるような依存があったり、ある対策が別の対策の効果を妨害したりと、実に複雑な構造をしています。これらが正確に記述できなければ、「この対策でこのリスクに対応する」という説明が説得力を持たなくなってしまいます。

そこで、「組織が持つ情報セキュリティの対策を正確に書ける地図」がもしあるとしたら、それは一体どういうものかということを検討しようというのがこのWGの活動内容です。



## ■ 検討の様子

2008年12月に準備会を開催し、この検討テーマに 興味を持つ方が多数いることがわかり、これを受け て2009年1月より正式にWGとして活動を開始しま した。その後2月10日までにほぼ2週間ごとに計3回 のWG会議を開催しています。

活動は「情報セキュリティ対策マップとは何か」というテーマのブレインストーミングからはじまりました。また、議論を深めるために、情報セキュリティ対策マップに近い既存事例の持ち寄りも行っており、これまでに20種近いコンテンツが集まりました。「情報セキュリティ対策はリスクと関連付けて議論すべきだ」「網羅性や分類の完全性を考慮すべき」といった本質論から、「本物の地図のようなワクワクする感じが欲しい」といった意見まで、毎回幅広い(広すぎるかも)意見を戦わせています。この領域はすでに検討が終わった領域であり新しい知見などないという厳しいご意見も一部から頂いていますが、己の信じる理想に燃えて真理と真実を探求する23名(2009年3月現在)のセキュリティの伊能忠敬たち(?)です。

## ■ 目標成果物

最大3年程度で以下のような成果物を作成することを目標としています。

- 先行事例調査結果報告書
- 情報セキュリティ対策マップモデル
- 標準情報セキュリティ対策マップ案
- 標準情報セキュリティ対策マップ

新規メンバーは随時募集しておりますので、この テーマに興味がある方はぜひ合流してください。

## ■ WG メンバー

(社名昇順)

	(
所 属	氏 名
インスパイアー株式会社	馬場 重通
AT&Tジャパン株式会社	吉村 光夫
NECソフト株式会社	小橋 良匡
株式会社NTTデータ	大谷 尚通
株式会社NTTデータ	春山 智
株式会社NTTデータ	吉村 俊哉
新日本有限責任監査法人	井出 幸静
セコムトラストシステムズ株式会社	北村 修造
ソフトバンク・テクノロジー株式会社	浅尾 顕史
ドコモ・システムズ株式会社	田中 健次郎
日本アイ・ビー・エム株式会社	松井 康宏
日本電気株式会社	安達 智雄
日本電気株式会社	宍戸 大介
日本電気株式会社	宮永 直樹
日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社	塚田 孝則
日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社	渡邊 浩一
株式会社日立情報システムズ	本川 祐治
富士通株式会社	奥原 雅之
富士通株式会社	佳山 こうせつ
富士通株式会社	鈴木 拓也
富士通株式会社	谷口 浩之
富士通株式会社	長谷川 喜也
扶桑電通株式会社	酒井 茂弘

## JNSA ワーキンググループ紹介

# 情報セキュリティ基本教育実証 WG

WG リーダー

日本アイ・ビー・エム株式会社 平山 敏弘

## ■ 当 WG 設立の目的

当 WG は、情報セキュリティの普及とスキル習得の地域格差是正を目指し、2006 年度に設立されました。

1) 情報セキュリティ基本教育の普及と社会貢献へ の意識向上

学生の方々に、社会でおきているセキュリティ事故が自分自身の身にいつ降りかかるかわからない危険性を認識してもらうと共に、講義の中で学んだ情報セキュリティスキルとの関連を認識してもらうことを目的としています。また情報セキュリティスキル習得の重要性およびそのスキルの活用が社会や企業活動に対して多く貢献することを意識してもらうことも重要なテーマとして取り組んでいます。

2) 教育を受ける権利や機会の地域格差是正への取り組み

教育を受ける権利や機会の地域格差があって はなりませんが、分野によっては地域格差があ るのもまた現実です。特に情報セキュリティの 分野は歴史が新しいと共に、技術の進歩がとて つもなく早いために、最新の情報は専門のIT 企 業に集まり、地方の学生の方々が最新技術や業界動向などを学ぶことが難しい傾向があります。

当 WG では、その問題点を解決する1つの方法として、遠隔授業による講義実施を試みています。

## ■ 活動内容

当WGは、2006年度に岡山理科大学総合情報学部大西教授のご協力を得て「岡山理科大学遠隔授業実施WG」として設立されました。岡山の学生の皆さんが、東京からJNSAWGメンバーである各企業の情報セキュリティ最前線のスペシャリストの面々による、回線経由でのライブでの遠隔授業実施とビデオ学習であるVoD(Video On Demand)形式での講義を受講することを実現しました。

2008年度からは、「情報セキュリティ基本教育実証WG」として、広く情報セキュリティ基本教育を広めることを目的として活動しています。基本月1回の定例を中心とした活動を実施しており、2008年度の主な活動実績としては、岡山理科大において2008年12月11日~12日に以下の合計7講義の集中講義を、東京からの遠隔授業で実施しました。



当集中講義は履修1単位対象となる岡山理科大学の 正式な講義として実施されています。

特別集中講義の内容は以下になります。

1時限目 インターネットセキュリティ概説

2時限目 ウィルスの話

3 時限目 情報公開の意味

4時限目 情報セキュリティ事件を始めとする問題提起

5 時限目 予防・再発防止策

6時限目 コンピュータの仕組みとセキュリティ

7時限目 情報セキュリティまとめ

2009 年度は、合計 15 講義 (2 単位対象) を実施する通常講義として開講される予定で、今その準備を進めています。

## ■ WG メンバー

リーダー 平山 敏弘	日本アイ・ビー・エム株式会社
園田 道夫	サイバー大学
長谷川 長一	株式会社ラック
河野 省二	株式会社ディアイティ
大津 留史郎	日本アイ・ビー・エム株式会社
久波 健二	日本アイ・ビー・エム株式会社
濱本 常義	株式会社エネルギア・コミュニケーションズ
安田 直	JNSA 主席研究員 サイバー大学

## ■ 今後の予定

今後は、岡山理科大学で実施したコンテンツを他の教育機関に対し、情報セキュリティの基本教育普及を目的とした横展開を図っていきたいと考えています。情報セキュリティ基本教育の普及にご関心のある教育機関の方がいらっしゃいましたら、当WGにご連絡下さい。

また当WGでは随時メンバーの募集も行っていますので、情報セキュリティの普及や教育機関に対する講義実施などの人材育成に興味のある方はご連絡ください。

# 会員企業ご紹介の

## アイマトリックス株式会社

http://www.imatrix.co.jp/

# imatrix

アイマトリックスは2000年に創立され、主にEメール、システムセキュリティに関連するサービス、技術・市場開発を行ってきたベンチャー企業です。「マトリックススキャン APEX」に代表されるメールセキュリティアプライアンスの開発・販売を主軸とし、PC-IBMシステムWebコネクティビティソフトウェアや、バイパス機能を持つ特殊なネットワーク製品の販売や、国内外のITベンチャー企業の市場開発コンサルタント、事業受託も行っています。コムタッチ社の日本総代理店として、RPD技術、VOD技術、IP Reputation技術のOEM販売および技術サポートもEメールS/Wやセキュリティアプライアンスベンダーに対して行っています。

## マトリックススキャン APEX アンチスパム・ウイルスアプライアンス

マトリックススキャン APEXは、「国産 (Made in Japan) 技術」で「メールシステムの最適化」を効果的に実現するために 開発されたソリューションです。アイマトリックス独自開発アンチスパム技術「 $msec^{TM}$ 」による日本語スパムの集中検知と アイマトリックスユーザ専用のコムタッチ社検出センターを国内に設置、

自社運用することで英語スパムだけでなく日本語スパムの特異性に強力に対応します。また自社開発のメリットを最大限に活かしたソースコードレベルからの技術サポートと24時間365日、全国320拠点の保守サポートによる万全なサポート体制を提供します。



## マトリックススキャン APEXの特長

- 迷惑メール対策アプライアンス製品国内シェア Nol ※「富士キメラ総研 2008 ネットワークセキュリティビジネス調査総覧」より
- 国産技術
- •日本国内検出センター、日本語スパムの特異性に対応
- •国内開発、ソースコードレベルの技術サポート
- スパム検出テクノロジー
- •自社開発 msec ™による日本語スパムの集中検知
- •コムタッチ社 RPD™による世界規模のスパム検知
- ●IPレピュテーションによるボット等のIP、ドメイン検知
- SMTP完全透過
- •オンメモリ高速スキャンによる配送遅延/ロスト発生なし
- •完全透過型設置による既存環境変更なしでの容易な導入
- ●バイパス NIC 標準搭載、H/W 障害時のシステム停止なし
- ●高可用性構成
- 低価格でマルチユニットを提供
- •並列・多重構成・コールドスタンバイと多様な構成を実現

- マルチドメイン・レイヤ
- 複数ドメインの取扱いが可能
- •5つのレイヤを用いてきめ細かいポリシー設定が可能
- 強力なSMTP流量制御·管理機能
- •メールサーバ負荷を平準化
- •多種多様な閾値による量的制御とIPレピュテーション
- 他のメールソリューションとの連携機能
- 透過型構成でのメールアーカイブ連携
- •スパムレスの効率的なメールアーカイブを実現
- 高信頼性プラットフォーム
- •世界的な実績を誇るプラットフォーム採用
- 全モデルで RAID 標準搭載、耐障害性向上



## お問い合わせ先

アイマトリックス株式会社カスタマーリレーション TEL: 044-272-6771

sales@imatrix.co.jp

http://www.imatrix.co.jp/jp/contact.html

## インスパイアー株式会社

http://www.inspire-inc.co.jp



昨今のITセキュリティ市場は、企業ネットワークやシステムへの外部からの不正アクセスなどの対策に留まらず、情報漏洩対策や内部統制強化など、コンプライアンスや企業の社会的責任を全うするためのセキュリティ対策が重要になっており、お客様にとって真に必要なのは、セキュリティ製品ごとのパーツ提供ではなく、導入から運用支援に至る総合的なサービスの提供であり、今まさに「総合ITセキュリティ・サービス」を提供するパートナーの存在が求められています。

インスパイアーは、「総合ITセキュリティ・サービスベンダー」として、IT社会におけるトータルセキュリティや企業コンプライアンスの強化に関する様々なサービスを通じ、お客様の企業価値をさらに向上させるための支援をさせていただきます。

## 2009年春より新規サービス【IRMS: Inspire Remote Management Service】を開始

## 【IRMSとは】

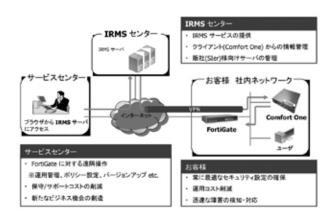
ITセキュリティの重要性に対する意識が高まる一方で、経営者の観点、およびIT管理者の視点からはセキュリティ確保にはコストがかかる、運用のための人的リソースの確保とスキルの向上が難しいといった声があがっております。 IRMS はそのような課題に対し、コストを最小限に抑え、常に安心・安全な ICT 環境を提供できるリモートマネージメントサービスです。

## ■IMRS を利用したサービスの第一弾として IMRS for FortiGate をリリース

## 【サービス概要】

IRMSサービス開始と同時に発売を開始する Comfort One をお客様のネットワークに接続していただくことで、サービスセンターから IRMS サーバを介して、セキュアにお客様社内ネットワークへアクセスし、FortiGateへの遠隔操作・設定変更などが可能となります。

IRMS for FortiGateの利用により、お客様、および販社様の保守・運用にかかることを大幅に削減することが可能となります。



## 【サービスモデル】

HW パッケージプランとサービスプランの一例

## ■HWパッケージ

	HW バッケージブラン	1年保守	3年保守	5年保守
1	FG50B パッケージ	FG50B-BDL + Comfort One		
2	FG60B パッケージ	FG60B-BDL + Comfort One		
3	FG110C パッケージ	FG1100	C-BDL + Comfo	ort One

## ■サービスプラン

	サービスブラン	販社独自型	シェア型	Inspire 型
1	FG50B パッケージ		サービス料(年)	
2	FG60B パッケージ		サービス料(年)	
3	FG110C パッケージ		サービス料(年)	

## ■サーバ利用料(販社様向け)

	パッケージ	販社独自型	シェア型	Inspire 졒
1	サーバ初期費用	初期費用		
2	サーバ利用料	サーバ利用料		

※他のFortiGate 機種に対してもパッケージがございますので、詳細 は弊社営業部までお問い合わせください。

## 【今後のサービス拡張】

次期サービスとしてIRMS for Support(24時間保守サポート)を予定しており、その後、他のネットワーク機器、サーバ、さらにはアプリケーションに至るまで IRMS サービスを拡充してまいります

## お問い合わせ先

## インスパイアー株式会社 営業部

〒 105-0014 東京都港区芝一丁目 14番4号 芝桝田ビル4階

TEL: 03-6825-5532 FAX: 03-5418-6969

E-mail: irms@inspire-inc.co.jp URL: http://www.inspire-inc.co.jp

## 「情報セキュリティプロフェッショナル教科書」のご紹介

## ■はじめに

昨年より情報セキュリティ教科書執筆者WGにて作成を行っていた「情報セキュリティプロフェッショナル教科書」が3月23日に発売され、ようやく日の目を見ることが出来ました。本書は、2005年にJNSAの教育部会が作成した「情報セキュリティプロフェッショナル総合教科書」の全面改訂版の位置付けとなります。時勢に合わせて新しい項目なども精力的に盛り込んだ結果、以前の書籍に比べて100ページ以上厚みが増す結果となりました。その分、内容的にも充実したものに仕上がっておりますので、ぜひ一度お手にとって頂き、自己啓発や組織内の教育などにご活用頂けると幸いです。

## ■教科書の構成

本書は、セキュリティ知識分野作成(SecBoK) WGにて策定された、「SecBoK (Security Body of Knowledge):セックボック」2008年度版の分類を参照 し構成されております。ですが、単純にSecBoKの分類 をそのまま用いたのではなく、書籍としてどのように すれば読み易くなるかを討議した結果、原因→対策→ 防御→管理のような考え方の章立てとしています。ま た、各章をまとめるために部を設けており、各部の初 めに総論を記載することで、部に含まれる章の概要が 分かるような構成としました。そのため、本書を手に される皆様は必要な項目のみをピンポイントで読み進 むことも出来ますし、最初から通して読むことで、脅 威と攻撃手法の理解から、各技術要素の防御の考え方、 果てはマネジメント、開発、運用のライフサイクルの 考え方やコンプライアンスに関する知識などを体系的 に身に付けていくことが出来ます。

次ページに、本書の構成と各章の執筆者のお名前を 列挙します。各章の執筆は第一線でご活躍されている 方々にお願いをしました。実際の現場にも精通してお られる方々なので、各章の内容はかなり充実したもの となっております。これだけの方々が執筆された内容 を、一冊の書籍でまとめて読み進めることが出来るこ とも本書の特色となっております。

## ■おわりに

ITセキュリティの分野は扱う範囲が広範であり、また日々変容しているため、体系的な知識の習得には困難が伴います。本書では、広範囲にわたるITセキュリティの多くの部分について触れています。本書を読み進むことで、広大かつ深遠なITセキュリティの基礎知識を身に付け、ITセキュリティのプロフェッショナルとなるために必要な専門知識を習得するための基盤を築くことが出来ます。人材不足が叫ばれるITセキュリティの分野において、一人でも多くのプロフェッショナルを輩出するために、本書が活用されることを期待します。

## ■書籍情報

書 名:情報セキュリティプロフェッショナル教科書

佐々木良一 監修、

日本ネットワークセキュリティ協会教育部会 著

ISBN: ISBN978-4-04-867782-0 サイズ: B5変型判/ページ数:720

**価格:** 本体4,700円+税**発売日:** 2009年3月23日

出版社:アスキー・メディアワークス



以上

文責:塩見 友規 (オー・エイ・エス株式会社)

## 「情報セキュリティ教科書」の構成と各章の執筆者

章建て	執筆者	所属		
第1部 脅威				
第1章 情報とシステムへの脅威とリスク	二木真明	住商情報システム(株)		
	濱本常義	(株)エネルギア・コミュニケーションズ		
第2章 攻撃の対象と攻撃の手法	杉谷智宏	(株)エネルギア・コミュニケーションズ		
	小宮山功一朗	JPCERT/CC		
第2部 ネットワークの防御				
第3章 ネットワーク	鳥居肖史	日商エレクトロニクス(株)		
第4章 ファイアウォール	二木真明	住商情報システム(株)		
第5章 攻撃の検知と防御	岩井博樹	(株)ラック		
第3部 コンピュータの防御				
	小野寺匠	マイクロソフト(株)		
第6章 OS	根津研介	NTTデータ先端技術(株)		
	田口裕也	日本オラクル(株)		
第7章 サービス	福原英之	ネットワンシステムズ(株)		
カ/草 サービス	樋口竜太	ネットワンシステムズ(株)		
第8章 PCの防御	小宮山功一朗	JPCERT/CC		
第4部 情報の防御				
第9章 暗号	齊藤泰一	東京電機大学		
	松本泰	セコム(株)		
第10章 認証、電子署名、PKI	稲田 龍	富士ゼロックス(株)		
	松本泰	セコム(株)		
第11章 セキュリティプロトコル	福田尚弘	パナソニック電工(株)		
第5部 管理・開発・運用	_			
第12章 情報セキュリティマネジメント	丸山満彦	監査法人トーマツ		
第13章 セキュア開発	小野寺匠	マイクロソフト(株)		
第14章 セキュリティ運用	勝海 直人	(株)ラック		
第6部 コンプライアンス	第6部 コンプライアンス			
第15章 法令:規格	吉岡 勝治	(株)PFU		
MTD   MTD   MTD	長谷川長一	(株)ラック		

## JNSA 会員企業情報

## JNSA 会員企業のサービス・製品・イベント情報

## ■サービス情報■

## ○IP Geolocationデータによるオンライン不正検出サービス

IP GeolocationデータSURFPOINTは、IPアドレスと位置情報や接続環境を結びつけたデータベースです。オンライン不正検出サービスでは、アクセスユーザの国内外判定、国内での位置判定によって、なりすましや不正アクセス徴候の検出が可能です。オンラインゲームやネットバンキングなどの他、各種会員管理や不正防止にご活用ください。

#### 【サービス情報詳細】

http://www.arearesearch.co.jp/

#### ◆お問い合わせ先◆

サイバーエリアリサーチ株式会社

E-mail: info@arearesearch.co.jp

TEL: 055-991-5544(本社) 03-3243-1070(東京支社)

## ○「セキュアキーパー4Gates」

「セキュアキーパー 4Gates」は、会計・販売等、基幹業務ソフトのホスティングサービス。堅牢なデータセンターの仮想化サーバ環境でご提供、冗長化された空調・電源設備・通信・サーバ監視を考慮したセキュリティを実現。さらにユーザー様は自身でのサーバのセットアップやシステム管理も必要なくインターネット回線でご利用いただくだけ。初期費用は10万円で、月額費用は3ユーザー様ご利用の場合で3万9,900円から。

## 【サービス情報詳細】

http://www.4gates.jp

## ◆お問い合わせ先◆

担当部署:株式会社インストラクション iDC営業部

担当 : 出野 誠(いでの まこと)

TEL: 03-5565-4580

URL: http://www.inst.or.jp/ E-mail: public@inst.or.jp

## ○メールセキュリティon-Demand

スパムメール対策を中心に、ウイルスメール駆除による感染防止、メールフィルタリングによる情報漏えい対策など、メールに関するセキュリティ機能を短期間、低コストで導入できるSaaS型サービスです。ハードウェア資産を購入所有する必要が無く、運用もSaaSセンタにて行うため、システム担当者の管理工数と人件費を軽減します。30日間無料お試しが可能です。

## 【サービス情報詳細】

http://www.hitachijoho.com/mail\_ondemand/

### ◆お問い合わせ先◆

株式会社日立情報システムズ 商品お問い合わせデスク【Faindesk】

URL: http://www.hitachijoho.com/contactus/

TEL: 0120-346-401

(受付時間 9:00~18:00 土・日・祝日は除く)

## ○アプリケーションソースコード脆弱性診断サービス

近年のアプリケーション複雑化と攻撃の巧妙化は、安全性における品質維持を困難にしています。

アプリケーションに一貫したセキュリティ対策を施し、根本から 脆弱性を排除するには、ソースコード検査が有効です。

本サービスはソースコードに内在する脆弱性とその原因個所を 把握し、早期に対策することを可能にします。

大規模なソースでも、全体を網羅し流れを追って検査、短期 報告し、その後のセキュア開発基準の策定にも貢献します。

#### 【サービス情報詳細】

http://www.dcs.co.jp/security/diagnostic/applisource.html

## ◆お問い合わせ先◆

三菱総研DCS株式会社 事業推進企画部

TEL: 03-3458-8680

E-mail: security-biz@in.dcs.co.jp

## ○クレジットカードデータセキュリティ PCI DSS対応ソリューション

お客様のPCI DSS対応を現状分析と実装のサービスで支援しませ

情報セキュリティでのコンサル実績やシステム導入の豊富な経験を活用し、お客様の運用負荷を考慮した最適な方法で、PCI DSS対応を実現します。

## ·PCI DSS 現状分析サービス

お客様のPCI DSS対応状況を分析し、必要となる対策を明確にします。

## ・PCI DSS実装サービス

お客様の体制、リソース、ご予算等を考慮し、運用を軽減する最適な対応方法・製品導入を提案します。

## 【サービス情報詳細】

http://www.hitachi-system.co.jp/pcidss/

## ◆お問い合わせ先◆

株式会社日立システムアンドサービス

TEL: 03-6718-5801, 052-569-2111, 06-6647-9408

E-mail: secure-pro@hitachi-system.co.jp

#### ■製品情報■

## ○スパム対策のパイオニア『IronPort Cシリーズ』

ジェイズ・コミュニケーションが取り扱っているスパム対策アプライアンス『IronPort Cシリーズ』は IPレピュテーション、Domain Key、VOF (Virus Outbreak Filters: ウィルス拡散防止フィルター)、コンテンツフィルターなど、最新のテクノロジーを駆使し、企業の電子メールシステムを保護。不要なメールは事前にブロックします!

#### 【製品情報詳細】

http://jscom.jp/products/ironport

## ◆お問い合わせ先◆

ジェイズ・コミュニケーション株式会社 担当:営業本部 第二営業部 吉岡 TEL: 03-6222-5858 FAX:03-6222-5855 E-mail: yoshioka@jscom.co.jp

## ○『データベース暗号化アプライアンスのご紹介』

SafeNet DataSecureシリーズは業界唯一のデータベース暗号 化アプライアンスです。

強固な暗号鍵管理と透過的なデータベース暗号化、容易な管理を提供する画期的なソリューションです。

## DataSecure により提供されるメリット:

## [セキュリティ]

FIPS 認定のハードウェアによる鍵管理、DBA 対策、PCI-DSS 対策

## [パフォーマンス]

遅延  $100 \mu \mathrm{s}$ 以下、バッチツールにより最大暗号処理約  $100 \mathrm{K}$  TPS

### [柔軟性]

多ベンダ複合環境にDataSecurel台で対応、主要DBに対し 開発不要

## [管 理]

Web UI 経由でのDB移行、設定管理、内部CA機能搭載「可用性」

クラスタ(VRRP対応)および負荷分散対応、設定の自動同期

## 【製品情報詳細】

http://jp.safenet-inc.com/products/ds/index.asp

## ◆お問い合わせ先◆

日本セーフネット株式会社 エンタープライズセキュリティ事業部

TEL: 03-5776-2751

E-mail: jp-info@safenet-icn.com

## ■イベント情報■

○Oracle Open World Tokyo 開催!

2009年4月22日~24日 有楽町国際フォーラム

(招待コード:2415 をご記入ください)

オラクルの日本国内最大イベントであるOracle Open World Tokyoを開催致します。本社会長ラリー・エリソンの基調講演、ご好評頂いているハンズオン・ラボ、特別講演、各種専門的セッションなど豊富な話題を提供すると同時に会場では実物を見聞して頂くこともできます。もちろん各種セキュリティ関連ソリューション・セッションも準備し皆様のご来場をお待ちしております。

#### 【イベント情報詳細】

http://www.oracle.co.jp/openworld/2009/index.html

## ◆お問い合わせ先◆

日本オラクル株式会社

info-openworld\_jp@oracle.com

## ○「情報セキュリティスペシャリスト育成コース(4月コース)」

グローバル標準の情報セキュリティ知識が、概念やアプローチなど本質的な内容の学習と理解により身につくと共に、さらに単なる知識のインプットだけではなく、その知識を実務に生かすための考え方・応用力が身につくコースです。

修了後にはCISSPやCISAなど、各種情報セキュリティ資格取 得講座へステップアップすることも可能です。

## 【イベント情報詳細】

http://www.lac.co.jp/event/20090413.html

## ◆お問い合わせ先◆

株式会社ラック セキュリティアカデミー事務局

TEL: 03-5537-2610

E-mail: info-academy@lac.co.jp

イベント開催の報告

# 賀詞交歓会と JNSA 賞授賞式のご報告

## ■ 賀詞交歓会

去る2009年1月20日(火)、JNSA主催による賀詞交歓会が八重洲富士屋ホテルにて開催されました。ご多忙 な中にもかかわらず、120名ほどの方々にご参加いただき、盛況のうちに開催されました。

今回は、内閣官房情報セキュリティセンター 内閣参事官 関啓一郎氏、総務省 情報流通行政局 情報セキュ リティ対策室長 新井孝雄氏、経済産業省 商務情報政策局 情報セキュリティ政策室 課長補佐 黒田俊久氏 (室長 三角育生氏の代理としてご出席)にご挨拶をいただき、独立行政法人 情報処理推進機構(IPA) 理事長 西垣浩司氏に乾杯の音頭をとっていただきました。

この他にも会員企業の方をはじめ、多くの政府関係や公益法人の方にもご参加頂き、交流を深めていただ く場となりました。



## ■ JNSA 賞授賞式

賀詞交歓会の場で、今年度で3回目を迎えたJNSA賞の授賞式も同時に執り行われました。

JNSAでは、情報セキュリティ向上のための活動を積極的に行い広く社会に貢献した、あるいはJNSAの知 名度向上や活動の活性化等に寄与した個人、団体、JNSAワーキンググループを対象に表彰を行う「JNSA賞」 を2006年度に発足しました。

この賞は、情報セキュリティの向上に寄与された方々を広く紹介し、その活動を称え、更に積極的な活動 をしていただけるよう設置したもので、広く社会に情報セキュリティが根付くきっかけとなり、より良い社 会を実現できる一助になればと考えています。

3回目の今年度は、2008年9月にJNSA賞の趣旨に沿う活動に貢献した個人、団体、JNSAワーキンググルー プ の推薦を自薦、他薦で募集し、10月の幹事会で推薦候補者を決め、11月に佐々木会長と各部会長の選考委 員会で受賞者を決定しました。

賀詞交歓会での授賞式で、各受賞者への表彰状・表彰楯・金一封が授与されました。次頁に受賞者の方々 をご紹介いたします。

## 個人の部(3件)

◇活動成果が社会に対して広く認知され、セキュリティの向上に貢献

□ 与儀 大輔 氏 (株式会社ラック)

教育事業者連絡会を発足し、教育事業者の連携と日本の情報セキュリティ政策へ影響を与えたことにより、 JNSAの活動ならびに情報セキュリティの向上に大きく貢献

## ◇セキュリティ技術の追求・向上、およびJNSAの活動に大きく貢献

□ 島岡 政基 氏(セコム株式会社 IS研究所)

日本PKIフォーラムにおける活動、IETFにおけるマルチドメインPKIに関するRFCの執筆などを行う。日本のITセキュリティ技術に関してのPKI普及、具体化および啓発活動を行い、国際間でのPKI技術の協調および技術の向上にも大きく貢献

□ 原田 季栄 氏(株式会社NTTデータ)

日本発のセキュリティ強化OSとして名前を知られる「TOMOYO Linux」のプロジェクトマネージャーとして、 日本の情報セキュリティ技術の向上に大きく貢献

## ワーキンググループ (WG) の部 (1件)

- ◇WGの活動成果が社会に対して広く認知され、セキュリティの向上に貢献
  - □ セキュリティ市場調査WG(WGリーダー:株式会社情報経済研究所 勝見 勉氏)

2004年度に経済産業省の委託として開始され、以降継続事業として調査を実施することで、不透明であった情報セキュリティ市場の実態把握と将来展望の明確化に大きく貢献

## 特別賞(2件)

- ◇インターネット安全教室を中心とする情報セキュリティ普及啓発活動を活発に実施することにより、広く一般社会 のセキュリティ知識の向上に貢献
  - □ 株式会社富山県総合情報センター(代表取締役社長 福岡 隆氏)
  - □ 特定非営利活動法人情報セキュリティ研究所(代表理事 臼井 義美 氏)

共に、経済産業省委託事業インターネット安全教室の共催団体であり、JNSAが目標とする情報セキュリティ社会の実現に貢献



## イベント開催の報告

## 第1回全国情報セキュリティ啓発シンポジウム やろっさ「インターネット安全教室」in ふくい

http://www.jnsa.org/caravan/2008/1031fukui/

経済産業省とJNSA主催事業「インターネット安全教室」の一環として、第1回全国情報セキュリティ啓発シンポジウム『やろっさ「インターネット安全教室」in ふくい』を2008年10月31日(金)に福井県国際交流会館にて開催しました。

シンポジウムは、より安全・安心なインターネット社会への発展を促すことを目的として、今後「インターネット安全教室」のような情報セキュリティ普及啓発活動を日本全国で展開していくにはどうすればよいか、また、地域で困っている点や問題点を共有し、解決策を一緒に考え、ひいては地域に対する「インターネット安全教室」の知名度向上と波及効果につながることを目標として開催しました。当日は教育関係者やPTAの方を始めとする150名余の方にご参加いただくことができ、盛況のうちに終了しました。以下にその報告を記載します。



【日程】2008年10月31日(金) 13:30~17:00

【会場】福井県国際交流会館 特別会議室 (福井市宝永3丁目1-1)

【主催】経済産業省、 NDOロオネットワー

NPO日本ネットワークセキュリティ協会 (JNSA)

【共催】NPOナレッジふくい、福井大学

【後援】警察庁、福井県警察本部、福井県、 福井市、福井県教育委員会、

福井市教育委員会、

福井県PTA連合会、

福井市PTA連合会、

福井県高等学校PTA連合会、

福井県公民館連合会、

(福)福井県社会福祉協議会、

福井県商工会議所連合会、福井新聞社、 (財)ふくい産業支援センター

【対象】インターネットの安心安全な利用について問題意識をお持ちの方、または、 今後何らかの対策が必要であると感じている方 【プログラム】

第1部:講演 13:40~14:40

今、インターネット社会では何が問題なのか!

・「日本における情報セキュリティ政策について」 経済産業省 商務情報政策局

情報セキュリティ政策室 課長補佐 黒田 俊久

・「サイバー犯罪の現状と対策」 福井県警察本部生活安全部生活環境課 サイバー犯罪対策支援室長 室長 平松 伸福

・インターネット危険サイトの現状(20分) 株式会社アークン 代表取締役 渡部 章

第2部:パネルディスカッション 15:00 ~ 17:00 安全・安心なインターネット社会を実現する為に 地域で・家庭で・学校でできること

◇コーディネーター クリエイシオン(「インターネット安全教室」コー ディネーター) 高木 利弘

◇パネリスト

◎国の立場から

経済産業省 商務情報政策局

情報セキュリティ政策室 課長補佐 黒田 俊久

◎情報セキュリティの専門家の立場から

京都大学学術情報メディアセンター准教授 上原 哲太郎 ◎学校教育の現場の視点から
和歌山大学 教育学部 准教授 豊田 充崇
◎他県の成功事例として
NDO情報セキュリティフォーラム 東教員

NPO情報セキュリティフォーラム 事務局長 植田 威

◎福井の立場から地域の悩みなど 福井県PTA連合会 副会長 中村 省一 ◎NPOとして普及啓発を推進する立場から NPO日本ネットワークセキュリティ協会 事務局長 下村 正洋

プログラムは2部構成とし、第1部では問題提議として「今、インターネット社会では何が問題なのか!」と題し、まずは経済産業省情報セキュリティ政策室の黒田課長補佐より日本における情報セキュリティ政策についてご説明いただき、それを受けて福井県警察本部の平松室長よりサイバー犯罪の現状と対策について県内の事例を交えながらご説明いただきました。その後、株式会社アークンの渡部氏から昨今問題になっている2ちゃんねるやプロフ・学校裏サイトなどの実例を交えながら、私たちを取り巻くネット環境の危険性について語っていただきました。

第1部の問題提議を受けて、第2部では「安全・安心なインターネット社会を実現する為に地域で・家庭で・学校でできること」というテーマでのパネルディスカッションを行いました。コーディネーターには、「インターネット安全教室」で全国を回っている株式会社クリエイシオンの高木氏、パネリストには官・学・NPO・地域のPTA連合会の方などを迎え、それぞれの視点から私たちをとりまくインターネット社会をどのように考え、どうしていけばよいかについて、熱い議論が交わされました。最後に、ナレッジふくいの高嶋事務局長と福井大学田中先生が「福井(北陸3県)安全教室推進協議会設立宣言」をされて終了しました。

今回は、初めての地方でのシンポジウム開催ということもあり、準備も含めて手探りで進めていったような感がありますが、心配された集客の点では予想をはるかに上回る150名もの方々に参加いただきました。また全国各地の「インターネット安全教室」共催団体の方々にも多数ご参加いただき、地方シンポジウム開催の意義を感じることができました。共催団体からは次年度はぜひ我が県で!という声も早速あがったように、今後の地方における情報セキュリティ普及啓発活動の拡大と発展のために、本シンポジウムが何らかの効果をあげるために、本シンポジウムが何らかの効果をあげることができたのならば幸いに感じます。



## Network Security Forum 2008

株式会社ディアイティ JNSA 安田 直

2008年12月17日~18日に、2年ぶりにNSF2008 が開催されました。今回は、前日の16日にJNSA、 (社)日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA)、 有限責任中間法人JPCERTコーディネーションセ ンター(JPCERT/CC)、(財)日本データ通信協 会 (TelecomISAC Japan)、有限責任中間法人 日本電子認証協議会 (JCAF) の5団体の共催で Security Day 2008が同じ会場で開催されまし た。「情報セキュリティを熱く語る3日間」と言 うことでしたが、ここでは、17~18日に開催さ れたNSFの方の内容を簡単にご紹介します。 NSFは、一昨年の2007年はお休みしましたが、 2008年は少し装いを新たにして再度開催する ことにしました。JNSAのWGの活動をベース にして、関連した内容の広がりを意識して、認 識している問題点を提示しながら、これからの 方向性についてできる限り意見交換をし、情 報共有をして行こうと言うことを目指しまし た。このため、1日目は「語り合おう情報セキュ リティ!<情報セキュリティの現状と今後を見 据えて>」というテーマで開催しました。2日目 は2008年に新設された情報セキュリティ教育 事業者連絡会 (ISEPA) が中心となって 「情報セ キュリティ人財育成シンポジウム」という形で 実施しています。プログラムの詳細などは次の URLをご覧ください。

http://www.jnsa.org/seminar/2008/1217nsf2008/

プログラムの内容を簡単にご紹介しておきま しょう。

## 1日目(12月17日)

技術トラックとマネジメントトラックの2トラックで構成されましたが、どちらも基本的には技術を背景にした内容となっており、『技術だけでは問題は解決できない。しかし技術の裏付けがなければ施策もできない。』という関係が裏付けられているようです。それでは、技術トラックのほうから見ていきます。

午前中は、ISEPAと同じく2008年に新設された日本セキュリティオペレーション事業者協議会 (ISOG-J) の活動を紹介する意味も兼ねたセッション技術向上、オペレータ人材育成、およびメンバー間の連携を推進し、安全で安心なIT環境実現に向けて寄与することを目的としています。「最新セキュリティ事情とセキュリティ運用の勘所 ~セキュリティオペレーションの現場から~」と題されたパネルディスカッションでは、DNSキャッシュ汚染攻撃や開発者と運用者の橋渡しについての話題で議論が進められました。その場で参加者に質問を書いてもらい議論を進める試みも行っていました。

昼休みを挟んだ2つ目は、技術部会長である住商情報システムの二木氏がモデレータを勤めたディスカッションで、「これからのセキュリティ運用を考える~パッチワークになってしまった対策をどう統合するかを考えよう~」というテーマで話し合われました。パッチワークという視点で現状と問題点が語られ、会場から活発な質問やコメントもありました。

3つ目は、JNSA研究員の岡野氏の「次世代情報通信セキュリティ:適応型アーキテクチャフレームワークの研究」というテーマの講演です。ご自身の大学院での研究テーマがベースになっているようですが、データやデータモデルの共有のためのメ

タモデルやそれに基づいた相互運用を行うための メッセージやインターフェースの標準化などにつ いての考察について触れ、「思い」の共有をしたい ということで会場からのアイディアを募っていま した。

4つ目は、セコム (株) IS研究所の島岡氏の「マルチドメインPKI - 日本発のPKI相互運用性標準 ~ なぜ我々が標準化を主導したのか?~」ということで、JNSAのChallengePKIプロジェクトの活動が基になって作られたRFC 5217 "Memorandum for multi-domain PKI interoperability"がIETFのPKIX-WGの場でどのように議論されたか、問題点はどこだったか等についての顛末が説明されました。RFC 5217は、PKIをマルチドメイン環境で運用する場合に必要となる情報を整理したものとなっています。

最後の5つ目は、U40部会メンバーによる覆面座 談会で、40歳以下の人がメンバーとなっているU40 部会の放談会で、セキュリティレンジャー風な色 とりどりの覆面を被って登場しました。内容は砕けていましたが、普段感じている矛盾や本質を突 く議論が出ていました。ここだけの話も頻発していました。情報セキュリティに関して社内や社外での奮闘など、いろいろな悩みも出され、情報共有の大切さを最後の締めとしていました。 平行セッションのマネジメントトラックは時間が若干変更され、昼休みの後から開始されました。最初は「なぜ進まない中小企業の情報セキュリティ対策」というタイトルで西日本支部が中心となっている活動から、中小企業の対応方法やその限界、どうあって欲しいか等について、アイネット・システムズの元持氏がモデレータとなりパネルセッションが行われました。

2つ目は、「情報システム担当者が語る『わが社の情報セキュリティ運用術』」というテーマで大塚商会の佐藤氏がモデレータを務めたパネルです。情報セキュリティを社内で運用するための各社での苦労や工夫などが各パネリストから紹介されました。ポリシーや社内教育などを始め、ISMSへの取り組み、社内免許制の実施などマネージメント系の視点から議論がされました。

3つ目はラックの西本氏の主導により「永遠のビギナー及びノーガード戦法に対して私たちが出来ること」というテーマでフリーディスカッションが行われました。永遠のビギナーとも呼ばれる、ITを利用することには興味はあるけど、ITそのものや情報セキュリティには特に興味を持たない人々が行うノーガード戦法に対してどのように対応するかというテーマで議論が行われました。会場からもいくつかの事例が出され問題意識の共有が行



## イベント開催の報告

われました。

最後の4つ目は、KDDIフェローの中尾氏による「情報セキュリティの国際標準の先に見えるもの〜国際戦略・国際連携〜」という講演で、国際標準の重要性がますます認識される中、具体的にISO、ITU-T、IETFなどでどのような活動が行われ、どのようにすれば議論に参加できるのかなどが解説されました。JNSAのWG準備会でもいろいろなテーマについて標準化の可能性や各標準化団体で議論するための準備や内容について議論が続けられています。

## 2日目(12月18日)

最後の日は、ISEPAのイベントとして構成されました。ISEPAは業界横断的な人材育成支援体制を整備し、人材育成に関する情報を広く社会に発信するとともに、情報セキュリティ人材の質の向上と量の拡大を効果的に推進することを目的としています。

最初の基調講演は、内閣官房情報セキュリティセンター (NISC) の前野内閣審議官による「情報セキュリティ先進国に向けて〜第2次情報セキュリティ基本計画の目指すもの」でした。NISCとしての取り組み、とりわけ第2次情報セキュリティ基本計画の全体像や考え方について説明されました。これらを実現し、実効あるものとするために実務家・専門家の育成が重要であり、IT利用に不安を感じる一般の方を限りなくゼロにするための考え方などについても述べられました。

2つ目は、ISEPAとしての代表として与儀氏から 活動について説明がありました。

3つ目は、スキルWGの衣川リーダと長谷川サブリーダから「情報セキュリティ人財アーキテクチャ(暫定版)」について発表がありました。「人財」を文字通り財産という視点で見つめ、人材という材料から、より価値を高めるための教育や資格などについて考察されました。

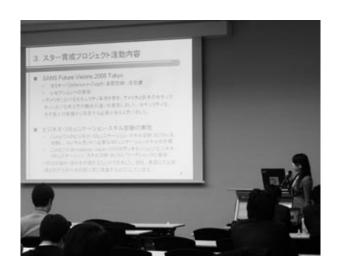
4つ目は、「情報セキュリティ人財アーキテク

チャ」というテーマで、ラックの村上氏とJPCERT の大林氏がコーディネーターを勤めたBoFです。セキュリティセンターのような業務としてインターネットのトラフィックや問題調査や解決を行っている立場を中心にした議論がされました。

5つ目は、「情報セキュリティ'人財'とは?」というパネルディスカッションで、コンピュータ エンジニアリング サービスの安田氏がコーディネーターを勤め、産学官の各方面の立場を持つパネリストを交えた議論が行われました。「人財」育成についてそれぞれの立場からの工夫や悩み、現状等が紹介され、更に今後の連携が必要だという意識が共有されました。

最後にISEPA代表の与儀氏から閉会の挨拶があり、NSF 2008は無事閉会しました。

NSFの内容もJNSA発足当初からテーマがだい ぶ変わってきました。当時は細かな技術的な内容 がやはり中心でしたが、最近は技術的問題も粒度 が大きくなり、加えてマネジメントも大きなテーマになってきています。時代の流れや技術の熟成も感じますが、これからも時代の背景を見ながら、それでいて先端や現状、いろいろな可能性を探る内容にできればと思います。皆様からもぜひアイディアやコメントをいただければ幸いです。



## Network Security Forum 2008 プログラム

12月17日 ~語り合おう情報セキュリティ~ <情報セキュリティの現状と今後を見据えて>

技術トラック(Room B/定員: 63名)	マネジメントトラック(Room C/定員: 72名)
【B1】パネルディスカッション 10:00~11:30〈90分〉 「最新セキュリティ事情とセキュリティ運用の勘所 ~セキュリティオペレーションの現場から~ 」 モデレータ: 川口 洋氏/(株)ラック パネリスト: 石橋圭介 氏/日本電信電話(株) 情報流通プラットフォーム研究所 中西克彦 氏/NECネクサソリューションズ(株)	
丹京真一 氏/(株)日立情報システムズ 木村真理 氏/(株)アイアイジェイテクノロジー 滝口博昭 氏/(株)ラック	
11:30 ~ 12	2:30 昼休み
【B2】パネルディスカッション 12:30~14:00〈90分〉 「これからのセキュリティ運用を考える~パッチワークになってしまった対策をどう統合するかを考えよう~」 モデレータ: 二木真明 氏/住商情報システム(株) パネリスト: 松本 泰氏/セコム(株)IS研究所 野々下幸治 氏/マカフィー(株) 佐藤友治氏/(株) ブロードバンドセキュリティ	【C2】BoF 12:30~14:00〈90分〉 「なぜ進まない中小企業の情報セキュリティ対策」 モデレータ: 元持哲郎 氏/アイネット・システムズ(株) パネリスト: 嶋倉文裕 氏/富士通関西中部ネットテック(株) 石井 茂 氏/独立行政法人情報処理推進機構(IPA) 和知哲郎 氏/メディアミックス(株) 平山喬恵 氏/(株)アクティブブレインズ
【B3】講演 14:00~15:00〈60分〉 「次世代情報通信セキュリティ: 適応型アーキテクチャフレームワークの研究」	【C3】BoF 14:00~16:00〈120分〉 「情報システム担当者が語る『わが社の情報セキュリティ 運用術』」
岡野直樹 氏/JNSA研究員  【B4】講演 15:00~16:00〈60分〉  「マルチドメインPKI - 日本発のPKI相互運用性標準 ~なぜ我々が標準化を主導したのか?~」  島岡政基 氏/セコム(株)IS研究所	モデレータ: 佐藤 憲一氏/(株)大塚商会 パネリスト: 山岡正輝 氏/(株)NTTデータ 平田彰禎 氏/オムロン(株) 中野 清 氏/(株)大塚商会
【B5】覆面座談会 16:00~17:00〈60分〉 「U40部会メンバーによる覆面座談会」 セキュリティに関する話題はもちろん、社外活動参加の苦労 話といった身近な話題から若手が考えるJNSAとして業界・ 社会に貢献できること、将来のセキュリティ業界のあるべき 姿まで幅広く議論します。	【C4】 BoF 16:00~17:00〈60分〉 「永遠のビギナー及びノーガード戦法」に対して 私たちが出来ること 西本逸郎 氏/(株)ラック
	【C1】講演 17:00~18:30〈90分〉 「情報セキュリティの国際標準の先に見えるもの 〜国際戦略・国際連携〜 」 中尾康二 氏/KDDI(株)

## イベント開催の報告

## 12月18日 ~情報セキュリティ人財育成シンポジウム~

ISEPAイベント(Room B+C/定員:144名)

【BC1】基調講演 10:00~11:00〈60分〉

## 「情報セキュリティ先進国に向けて~第2次情報セキュリティ基本計画の目指すもの」

前野 陽一 氏/内閣官房情報セキュリティセンター 内閣審議官

【BC2】講演 11:00~11:30〈30分〉

「ISEPAの活動について」

与儀大輔 氏/ISEPA代表

【BC3】講演 11:30~12:30〈60分〉

## 「情報セキュリティ人財アーキテクチャ発表」

衣川俊章 氏/スキルWGリーダー

長谷川長一氏/スキルWGサブリーダー

## 12:30~13:30 昼休み

【BC4】BoF 13:30~14:30(60分)

## 「情報セキュリティ人財アーキテクチャ」

コーディネーター: 村上 晃 氏 (株)ラック サイバーリスク総合研究所 主管研究員 大林正英 氏 JPCERTコーディネーションセンター(JPCERT/CC) 経営企画室 経営企画室付

【BC5】講演 14:30~14:55〈25分〉

## 「スター育成プロジェクトアップデート」

鈴木 悠氏/(株)ラック

## 14:55~15:35 休憩

【BC6】 パネルディスカッション 15:35~16:55〈80分〉

## 「情報セキュリティ'人財'とは?」

コーディネーター: 安田良明 氏 コンピュータ エンジニアリング サービス(株)

スキルWG MPチームサブリーダー

パネリスト: 満塩尚史 氏 株式会社イマーディオ 代表取締役 環境省CIO補佐官

早貸淳子 氏 JPCERTコーディネーションセンター(JPCERT/CC) 常務理事

情報セキュリティ大学院大学セキュアシステム研究所 客員研究員

園田道夫 氏 サイバー大学准教授

出口幹雄氏 富士通(株)セキュリティソリューション本部

セキュリティサービス統括部 ITマネージメントセンター センター長

閉会のご挨拶 16:55~17:00 与儀大輔 氏/ISEPA代表

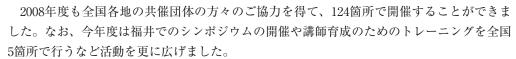
# 2008 年度 「インターネット安全教室」のお知らせ

~パソコンや携帯電話で思わぬトラブルや犯罪にまきこまれないために~

誰でも手軽にインターネットに接続できるようになった今日、ウイルス感染、詐欺行為、プライバシー侵害など情報犯罪の被害にあう危険性がますます高くなってきています。いかに技術が進歩しても、ひとりひとりの意識の向上、モラルの徹底がなければ、これらの被害を防ぐことはできません。

こうした状況をふまえ、経済産業省とNPO 日本ネットワークセキュリティ協会 (JNSA) では、家庭や学校からインターネットにアクセスする人々を対象に、どうすればインターネットを安全快適に使うことができるか、被害にあったときにはどうすればいいかなど、情報セキュリティに関する基礎知識を学習できるセミナー「インターネット安全教室」を2003年度より開催してまいりました。

家庭向けのリーフレット「親子で守って安全・安心10か条」や「まんがインターネット安全 教室」を作成し、配布するなど、昨今の携帯電話などによるネット利用の低年齢化にも配慮 しています。



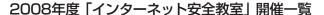


[主 催]経済産業省、NPO日本ネットワークセキュリティ協会(JNSA)

[後 援] 警察庁、文部科学省、その他各開催地大学・新聞社・県・県警等(以上予定)

[開催一覧] 一覧をご覧下さい。(2009年3月5日現在)

開催状況については、随時更新しています。「インターネット安全教室」ホームページをご確認ください。 http://www.jnsa.org/caravan/



(2009年3月5日現在 124箇所)

日程	開催地	共催団体	会場
6月7日(土)	富山	株式会社富山県総合情報センター	富山市立鵜坂公民館・会議室
6月7日(土)	愛媛	愛媛県  T推進協会	アイテムえひめ 愛媛国際貿易センター
6月7日(土)	鹿児島	NPO法人鹿児島インファーメーション	鹿児島市消費生活センター研修室
6月17日(火)	岐阜(新規)	高山市立国府中学校	国府中学校体育館
6月21日(土)	北海道	国立大学法人北見工業大学	北見工業大学総合研究棟2階 多目的講義室
6月24日(火)	鹿児島	NPO法人鹿児島インファーメーション	鹿児島市消費生活センター研修室
6月30日(月)	富山	株式会社富山県総合情報センター	富山市総曲輪公民館
7月5日(土)	群馬	NPOおおたIT市民ネットワーク	宝泉行政センター 多目的ホール
7月5日(土)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム(NPO-ISEF)	綾瀬市立中央公民館 3階 講堂
7月7日(月)	岡山	岡山県インターネットセキュリティ対策連絡協議会	岡山南警察署
7月8日(火)	群馬	NPO法人おおたIT市民ネットワーク	錦打中学校 体育館
7月11日(金)	岡山	岡山県インターネットセキュリティ対策連絡協議会	岡山市立福南中学校
7月12日(土)	沖縄(新規)	NPO法人フロム沖縄推進機構	沖縄コンベンションセンター 会議場A1
7月12日(土)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム(NPO-ISEF)	アートフォーラムあさみ野 セミナールーム
7月17日(木)	大阪	NPO法人きんきうぇぶ	河内長野市立小山田小学校
7月29日(火)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム(NPO-ISEF)	伊勢原市商工会館 4階 中会議室
7月30日(水)	岡山	岡山県インターネットセキュリティ対策連絡協議会	岡山市立光南台中学校図書館
8月6日(水)	山形	山形大学学術情報基盤センター	山形大学小白川キャンパス学術基盤センター





日程	開催地	共催団体	会場
8月20日(水)	大阪	GIS総合研究所	場市立女性センター 3階 大ホール
8月22日(金)	長野	上田市マルチメディア情報センター	上田市・東築地公民館
8月22日(金)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	立田川・東宋地公氏師    逗子市役所 5階 第7・8会議室
	岐阜	NPO法人生涯の地域活動支援の会アツマールぎふ	岐阜県民ふれあい会館第2棟4F
8月24日(日) 8月25日(月)		NPO法人生涯の地域活動支援の云アフィールさぶ NPO法人鹿児島インファーメーション	収字宗氏ぶれのい云郎弟2保4日
	東京	NPO情報セキュリティフォーラム	中野区立武蔵台小学校 視聴覚教室
8月27日(水)			
9月4日(木)	大阪	NPO法人きんきうぇぶ	河内長野市南花台西小学校 4.5円依束 5.4.4.4.5円依束 5.4.4.4.5円依束 5.4.4.5円依束 5.4.4.5円k 5.4.4.5.4.5.4.5.4.5.4.5.4.5.5.4.5.5.5.5
9月12日(金)	宮城	仙台インターネット推進研究会	仙台市市民活動サポートセンター4F研修室 5
9月16日(火)	神奈川	藤沢市	藤沢市辻堂公民館1階 第1談話室   綾瀬市役所 3階 315会議室
9月16日(火)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	鎌倉商工会議所3F会議室
9月18日(木)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	河内長野市三日市公民館
9月25日(木)	大阪 三重	NPO法人きんきうぇぶ   くわなPCネット	州内長野巾三口巾公氏照   桑名市総合福祉会館(桑名市社会福祉協議会内)第2会議室
9月25日(木) 9月29日(月)	東京	NPO法人イーパーツ	栄石川松吉価性云路(柴石川社云価性協議云内)第2云議至  世田谷文化生活情報センター
10月1日(水)	東京	(財)日本情報処理開発協会「情報化月間」事務局	ANAインターコンチネンタルホテル東京 地下1F「プリズム」 中野区立新山小学校 図書室
10月3日(金)	東京	NPO情報セキュリティフォーラム(NPO-ISEF)	
10月7日(火)	奈良	奈良県社会教育センター	斑鳩町中央公民館
10月8日(水)	福井	NPOナレッジふくい	敦賀中郷公民館 河中馬野寺寺村小学校
10月10日(金)	大阪	NPO法人きんきうぇぶ	河内長野市立楠小学校
10月12日(日)	福島	NPO法人日本コンピュータ振興協会	公立大学法人 会津大学 ウエルネスさがみはら A館7階 視聴覚室
10月17日(金)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
10月18日(土)	福島	NPO法人日本コンピュータ振興協会	福島県文化センター視聴覚室
10月21日(火)	福井	NPO法人ナレッジふくい	越前市ワークメイト
10月23日(木)	栃木	NPO栃木シニアセンター	小山市中央公民館
10月24日(金)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	秦野市立西公民館 1階 視聴覚室
10月25日(土)	北海道	旭川情報産業事業協同組合	旭川市科学館
10月25日(土)	和歌山	情報セキュリティ研究所	海南市立第3中学校
10月26日(日)	新潟	NPO新潟情報セキュリティ協会	ほんぽーと(新潟市立中央図書館)3階 研修室2
10月27日(月)	大阪	GIS総合研究所	追手門学院大学
10月28日(火)	奈良	奈良県社会教育センター	かしはら万葉ホール
11月7日(金)	神奈川	藤沢市	藤沢市長後公民館 第2談話室
11月8日(土)	大阪	NPO法人きんきうぇぶ	河内長野市立長野小学校
11月8日(土)	徳島(新規)	財団法人e-とくしま推進財団	アスティとくしま
11月8日(土)	滋賀	NPO滋賀県情報基盤協議会	滋賀県立彦根工業高等学校
11月8日(土)	福井	NPO法人ナレッジふくい	福井市春山公民館
11月8日(土)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	南足柄市立向田小学校 図書室
11月12日(水)	青森	財団法人八戸地域高度技術振興センター	八戸市総合福祉会館 2階多目的ホール
11月12日(水)	大阪	NPO法人きんきうぇぶ	河内長野市立加賀田小学校体育館
11月15日(土)	群馬	NPO法人おおたIT市民ネットワーク	九合行政センター
11月15日(土)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	川東タウンセンター マロニエ 2階 集会室202
11月16日(日)	宮崎	宮崎公立大学	宮崎公立大学 交流センター 多目的ホール
11月18日(火)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	横須賀市役所 3号館 5階 正庁
11月18日(火)	神奈川	藤沢市	藤沢市明治公民館 第2談話室
11月18日(火)	大阪	NPO法人きんきうぇぶ	河内長野市立高向小学校   世田谷ボランティアセンター
11月18日(火)	東京	NPO法人イーパーツ	
11月21日(金)	大阪	NPO法人きんきうぇぶ	河内長野市立加賀田小学校体育館 藤沢市片瀬公民館 第2談話室
11月21日(金)	神奈川		
11月22日(土)	福井	NPO法人ナレッジふくい	福井市日新公民館 フォーラム南太田 3階 大会議室
11月27日(木)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	
11月27日(木)	和歌山	NPO情報セキュリティ研究所	海南市立内海小学校
11月29日(土)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	川崎市多摩市民館 3階 大会議室
11月29日(土)	岐阜	NPO法人泉京・垂井(セント・タルイ)	垂井町文化会館   小ホール
11月29日(土)	奈良	奈良県社会教育センター	王寺町やわらぎ会館
11月29日(土)	福井	NPO法人ナレッジふくい	福井厚生年金会館 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
11月30日(日)	愛知	東海インターネット協議会	愛知工業大学 本山キャンパス講義室1
12月2日(火)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	相鉄岩崎学園ビル 8階 809号室
12月5日(金)	大分	ハイパーネットワーク社会研究所	大分芸術文化短期大学 人文棟 102講義室
12月8日(月)	神奈川	藤沢市	藤沢市湘南台公民館 第1談話室
12月14日(日)	鹿児島	NPO鹿児島インファーメーション	鹿児島アリーナ 1階 会議室B
12月16日(火)	神奈川	藤沢市	藤沢市御所見公民館 第2談話室
12月19日(金)	神奈川	藤沢市	藤沢市村岡公民館 学習室
12月23日(火)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	横浜リハビリテーション専門学校
1月16日(金)	神奈川	藤沢市	藤沢市湘南大庭公民館 第1談話室

日程	開催地	共催団体	会場	
1月16日(金)	滋賀	NPO滋賀県情報基盤協議会	龍谷大学 瀬田学舎6号館B108教室	
1月16日(金)	千葉	NPO法人松戸ITVネットワーク	松戸市役所文化ホール	
1月22日(木)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	神奈川県平塚合同庁舎 5B会議室	
1月23日(金)	神奈川	藤沢市	藤沢市鵠沼公民館 第3談話室	
1月27日(火)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	厚木市ヤングコミュニティセンター	
1月28日(水)	神奈川	藤沢市、NPO情報セキュリティフォーラム	藤沢市総合防災センター 6階 第1,第2会議室	
1月29日(木)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	二宮町ITふれあい館	
1月29日(木)	大阪	NPO法人きんきうぇぶ	河内長野市立南花台公民館	
1月31日(土)	大阪	大阪工業大学	大阪工業大学 大宮学舎 1041教室(10号館4F)	
2月1日(日)	群馬	NPOおおたIT市民ネットワーク	イオンモール太田 イオンホール	
2月4日(水)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	葉山町福祉文化会館	
2月4日(水)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	神奈川県横浜市緑区山下地区青少年の家	
2月6日(金)	香川	e-とぴあ・かがわ	e-とぴあ・かがわ BBスクエア	
2月7日(土)	岩手(新規)	デジタルネットワークいわて	日本現代詩歌文学館・講堂	
2月12日(木)	埼玉(新規)	NPO市民と電子自治体ネットワーク	さいたま文化センター・大集会室	
2月13日(金)	熊本	NPO法人NEXT熊本	くまもと県民交流館パレア パレアホール	
2月13日(金)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	神奈川県横須賀合同庁舎	
2月13日(金)	神奈川	藤沢市	藤沢市六会公民館 第2談話室	
2月14日(土)	室蘭	NPO法人くるくるネット	胆振地方男女平等参画センター(ミンクール)2F大会議室A	
2月15日(日)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	海老名市役所 附属棟D·E会議室	
2月15日(日)	岡山	岡山県インターネットセキュリティ対策	岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館	
ZH ISD(D)	一一	連絡協議会	【きらめきプラザ】4階 研修室	
2月16日(月)	大阪	NPO法人きんきうぇぶ	レインボーホール(富田林市市民会館)3階 農林会議室	
2月18日(水)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	箱根町役場	
2月20日(金)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	横須賀市野比町内会館	
2月21日(土)	福島	NPO法人日本コンピュータ振興協会	白河地域職業訓練センター 第2教室	
2月21日(土)	福島	NPO法人日本コンピュータ振興協会	郡山市立中央公民館 第2講義室	
2月22日(日)	福島	NPO法人日本コンピュータ振興協会	南相馬市文化センター 視聴覚教室	
2月22日(日)	福島	NPO法人日本コンピュータ振興協会	いわき市健康・福祉プラザ『いわき ゆったり館』研修室(大)	
2月23日(月)	埼玉	NPO情報セキュリティフォーラム	草加市立谷塚西公民館	
2月24日(火)	秋田	NPOノースウィンド	はたまちITセンター(能代市畠町商店街)	
2月27日(金)	佐賀(新規)	NPO法人シニアネット佐賀	アバンセ	
2月28日(土)	長崎	長崎県立大学	長崎県立大学	
2月28日(土)	福井	NPO法人ナレッジふくい	高浜町和田公民館	
3月2日(月)	神奈川	藤沢市	藤沢市遠藤公民館 第1談話室	
3月6日(金)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	藤沢商工会議所	
3月6日(金)	神奈川	藤沢市	藤沢市善行公民館	
3月6日(金)	富山	株式会社富山県総合情報センター	富山県ITセンター	
3月8日(日)	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	川崎市生涯学習プラザ	
3月12日(木)	福井	NPO法人ナレッジふくい	福井市きらら館	
3月13日(金)	神奈川	藤沢市	藤沢市藤沢公民館 第2談話室	
3月14日(土)	福井	NPO法人ナレッジふくい	坂井市長畝公民館	
3月24日(火)	三重	くわなPCネット	四日市大学 9号館 9406号室	
3月28日(土)	岐阜	かにぱそこんくらぶ	帷子公民館	

## 【全国情報セキュリティ啓発シンポジウム】

08/10/31(金) 【福井県福井市】 やろっさインターネット安全教室 in ふくい詳細はP22のイベント開催報告をご覧ください。

## 【2008年度 講師トレーニング】

08/09/05(金)~06(土) 【香川県高松市】 協力:e-とぴあ・かがわ 08/10/19(日) 【岐阜県大垣市】 協力:(財)ソフトピアジャパン 08/11/21(金)~22(土) 【富山県富山市】 協力:富山県総合情報センター

09/01/16(金)~17(土) 【東京都】

09/02/13(金)~14(土) 【大分県大分市】 協力:(財)ハイパーネットワーク社会研究所

## 事┃務┃局┃お┃知┃ら┃せ

# JANSOUNCE

## 1. 主催セミナーのお知らせ

## ● 2008年度JNSA活動報告会(予定)

会 期: 2009年6月3日(水)

主 催: NPO日本ネットワークセキュリティ協会

会 場:ベルサール神田

参加費:無料

詳細については、JNSAホームページをご覧下さい。

## 2. 後援・協賛イベントのお知らせ

# SCMシンポジウム2009 SCMソリューションフェア2009

**会 期:** 2009 年 5 月 21 日 (木) ~ 22 日 (金)

主 催: 社団法人 日本ロジスティクスシステム協会

会 場: 東京ビッグサイト http://logistics.or.jp/scm-fair/

## 2. 第13回サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム

**会 期:** 2009 年 6 月 4 日 (木) ~ 5 日 (金)

主 催:和歌山県、和歌山県警、白浜町

情報システムコントロール協会大阪支部(ISACA)

和歌山大学、近畿大学生物理工学部、

情報処理推進機構(IPA)、 NPO情報セキュリティ研究所

会 場: コガノイベイホテル

## 3. RSA Conference Japan 2009

**会 期:** 2009 年 6 月 8 日 (月) ~ 6 月 12 日 (金)

主 催: RSA Conference Japan 2009 実行委員会

会 場:幕張メッセ 国際会議場

http://www.cmptech.jp/rsaconference/

## 4. Interop Tokyo 2009

**会 期:** 2009 年 6 月 8 日 (月) ~ 6 月 12 日 (金)

主 催: Interop Tokyo 2009 実行委員会

会場:幕張メッセ http://www.interop.jp/

## 5. 自治体総合フェア2009

**会 期:** 2009年7月15日(水)~17日(金)

主 催:社団法人日本経営協会

会 場: 東京ビッグサイト 東展示棟

http://www.noma.or.jp/lgf/

## 6. ワイヤレスジャパン2009

**会 期:** 2009 年 7 月 22 日 (水) ~ 24 日 (金)

主 催:株式会社リックテレコム

会 場: 東京ビッグサイト 東4・5ホール

http://www.wjexpo.com/

## 3. JNSA 部会・WG 2008 年度活動

## 1. 政策部会

(部会長: 西本逸郎 氏/ラック)

調査事業や様々な基準・ガイドラインの策定、他団体と の連携などを行う。

## 成果物目的のワーキンググループ

## 【セキュリティ被害調査WG】

(リーダー:大谷尚通 氏/NTTデータ)

2008年1年間に発生した情報漏えいによる情報セキュリティ被害の実態を調査し、情報漏洩インシデントの傾向、対策状況、組織に与えるインパクト等を定量的に分析し、報告書として公開する。また、情報漏洩以外の情報セキュリティインシデントについて、算定モデルを検討し、同じく組織に与えるインパクト等の定量化を目指す。

過去の成果物は、毎年毎の「情報セキュリティインシ デントに関する調査報告書」(本編、英語版、データ集 CD-ROM)

今年度ば2008年上半期情報漏えいインシデント報告書 (速報版)」を公開。

## 【内部統制におけるアイデンティティ管理WG】

(リーダー:宮川晃一 氏/グローバルセキュリティエキスパート) 2008年度は、企業におけるアクセス権付与に関する考え方と、アイデンティティの企業間連携成を成果物テーマとして、第2版の発行を目的とする。また、インターネットにおけるアイデンティティ(OpenID, Libety, SAMLなど)を勉強テーマとして活動する。

予定成果物は、内部統制におけるアイデンティティマネージメント解説書とセミナーの実施。

## 【情報セキュリティランキングWG】

(リーダー: 佐野智己 氏/凸版印刷)

情報開示の充実度や取り組み姿勢、社会貢献活動などにも着目した、JNSA版情報セキュリティランキングを定期的に公表する。上位ランキング企業がどういう取り組みをしているかを把握するとともに、真摯に取り組む企業を讃える仕組みとして定着を目指す。

予定成果物は、ランキング結果。

## 【情報セキュリティ関連パブコメ検討WG】

(リーダー:河野省二氏/ディアイティ)

毎年、各省庁から情報セキュリティ関連の政策が数多く 提出されており、これらの多くにパブリックコメントが求め られている。

これらの政策についてよく理解するための勉強会を開催

し専門家としての知識を得ること、そして専門家としての 意見を政策に反映するためのパブリックコメントを提出す ることを目的として活動する。

## 【セキュリティ市場調査WG】

(リーダー: 勝見勉 氏/情報経済研究所)

情報セキュリティに関する市場の状況ならびに規模等を調査・分析し、WG参加者、JNSA、業界、行政の参考に供する。併せて参加者の勉強・研鑽の場として活用してもらい、業界知識の拡大、人脈の展開、調査分析スキルの向上に資する。

2008年度も経済産業省委託事業の一環として実施。

予定成果物は、「2008年度版情報セキュリティ市場調査報告書」。

## 2. 技術部会

(部会長: 二木真明 氏/住商情報システム)

ネットワークセキュリティに関する調査・研究や、実証 実験などを行なう。その他、予算を得た活動は、プロ ジェクトとして活動を進める。

## 成果物目的のワーキンググループ

## 【ハニーポットWG】

(リーダー: 園田道夫 氏/JNSA研究員)

ネットを飛び交うマルウェアの実態を、ハニーポットやお とりサーバー、おとりのアカウントなどを用いて研究・解析 する。

予定成果物は、マルウェア捕獲報告書。

## 【セキュアプログラミングWG】

(リーダー: 伏見論 氏/情報数理研究所)

セキュアプログラミングの技術的課題の収集、および、 アプリケーションセキュリティの国際規格の内容の検討と コメント作成を行う。

予定成果物は情報規格調査会に対するインプットコメント。

## 【セキュアOS普及促進WG】

(リーダー:澤田栄浩 氏/JTS)

セキュアOSの有効性をアピールするために活動内容を Webに公表し、公表している情報を見てもらえるように各 種雑誌にアピールしていく。また、インシデントとセキュア OSの関係を紐解いていく。

## 【情報セキュリティ対策マップ検討WG】

(リーダー: 奥原雅之 氏/富士通)

企業など組織内の情報セキュリティ対策として何を採用するかを規定した「カタログ」は「ISO/IEC27002」、「情報セキュリティ管理基準」「NIST SP800-53」など多数あるが、これらの対策が組織全体で網羅的に実施され組織内のリスクをすべてカバーしているかどうかを確認するためのいわば「組織内の情報セキュリティ対策マップ」を作成する手法はまだ確立されていない。

「情報セキュリティ対策マップ」はISMSのリスク分析やセキュリティ対策の効果測定など、組織全体のセキュリティ活動の把握・可視化のための有効な手法となる。本WGでは、組織内の「情報セキュリティ対策マップ」を作成するための手法、記述モデル、および汎用的な標準情報セキュリティ対策マップ案を開発することを目的とする。

予定成果物は先行事例調査結果報告書。(1年目)

## 勉強会目的のワーキンググループ

## 【PKI相互運用技術WG】

(リーダー: 松本泰 氏/セコム)

PKI相互運用技術の情報共有を行う。年間の活動としては、IETFの参加、PKI dayなどのセミナー開催など。

予定成果物は、「暗号アルゴリズムの移行問題」 について、何らかの報告書をまとめる可能性がある。

## プロジェクト

## [Challenge PKI]

(リーダー: 松本泰 氏/セコム)

2008年度は、Multi-domain-PKIのRFC化の見通しが立っており、このRFC化を足掛かりとして、「暗号アルゴリズム移行問題」、「電子署名法に関連した相互運用技術の課題」など、幅広い問題の解決に取り組むことを検討している。

## 3. マーケティング部会

(部会長:高橋正和氏/マイクロソフト)

JNSA自身の認知度向上と、ネットワークセキュリティに 関する普及・啓発活動を行う。

## 【会員製品 PR 企画検討WG】

(リーダー: 小屋晋吾 氏/トレンドマイクロ)

IDGジャパン社に運営移管した「セキュリティ製品バイヤーズガイド」へのコンテンツ提供や製品登録への協力などについて検討を行う。

## 【セキュリティ啓発WG】

(リーダー:平田敬氏/ブリッジ・メタウェア)

2007年度同様、経済産業省の委託事業である「インターネット安全教室」の企画・運営を通してセキュリティ啓発活動を行う。

## 4. 教育部会

(部会長:安田直 氏/サイバー大学/JNSA主席研究員)

ネットワークセキュリティ技術者の育成のために、産学協同プロジェクトを進め、大学や企業で行うべき教育のカリキュラムの検討やユーザー教育の在り方についての調査・検討などを行う。

## 【CISSP行政情報セキュリティCBK-WG】

(リーダー:大河内智秀氏/NTTラーニングシステムズ) 2008年度は、CISSPに関する知名度向上に関する取組 みを行う。

## 【セキュリティリテラシーベンチマーク作成WG】

(リーダー:大溝裕則 氏/JMCリスクソリューションズ)

2008年2月に公開した組織管理者向け機能を追加した「情報セキュリティ理解度チェックサイト」のビジネスモデル案の検討を行うとともに、サイト全体の自主運営に向けた検討を行う。

## 【SecBok(セキュリティ知識分野作成) WG】

(リーダー: 長谷川長一 氏/ラック)

引き続き、セキュリティ知識の策定と活用に関わる検討を行う。また、活動の目的や内容がほとんど重複する情報セキュリティ教育事業者連絡会(ISEPA)との棲み分けを検討し、今年度以降の役割分担と連携関係を明確にする。

予定成果物は、「セキュリティ知識分野2008年度版 (仮)」、「セキュリティ知識分野活用ガイド(仮)」

## 【セキュリティ講師スキル研究WG】

(リーダー: 長谷川長一 氏/ラック)

引き続き、セキュリティ講師に必要なスキルの調査研究 および実証を行う。(情報セキュリティ教育事業者連絡会 :ISEPAとの連携による活動も行う)

策定した「セキュリティ講師スキル(案)」をもとに更なる調査や実証実験を実施する。

## 【情報セキュリティ教科書執筆者WG】

(リーダー: 塩見友規 氏/オー・エイ・エス)

情報セキュリティのプロフェッショナルを目指そうという IT技術者向けの教科書」を執筆することを目的とする。ス キルマップなどの項目分類の更新情報等を参考にし、専 門家としての初学者に知ってもらいたい内容をできるだけ網羅する。

予定成果物は、「情報セキュリティプロフェッショナル教 科書 | の出版。

## 【教育アーカイブズ検討WG(仮称)】

(リーダー:河野省二氏/ディアイティ)

JNSAメンバー始め非メンバーも、セミナーや研修用に 色々なスライド等を持ち、大抵の場合再利用されずに埋も れている状態である。著作者本人が公開すれば権利関係 の問題は無く、質の高い教育用資料を社会的に共有する ことができる。

教育用資料等の有効活用、歴史的なアーカイブを保管・ 検索できる場」を作るということは意義があるだろうという ことから、具体的なアーカイブを作るための検討と試行を する予定である。

予定成果物は、試行用データの収集とデータベース化の 試行報告書。

### 【情報セキュリティ基本教育実証WG

#### (旧:岡山理科大学遠隔授業実施WG)】

(リーダー:平山敏弘 氏/日本IBM)

今まで、情報セキュリティの教育者のスキルについて検討を行い、2006年度に「情報セキュリティ教育の指導者向け手引書」を公開した。これらの成果を実践に生かす形で、岡山理科大学で集中講義という形で遠隔授業を行ってみた。

2009年度からは2単位(15駒)の正式単位認定講義となるのに伴い、カリキュラムやシラバス、講義内容、講義形式等々の検討を行うため、WGとして活動することにした。

講師候補の方々を始め、実際の大学での遠隔授業に一家言ある方の参加も可能である。

予定成果物は、講義のシラバス、講義資料、定期試験、 等々のコンテンツ類と報告書。

## 5. U40部会

(部会長:加藤雅彦 氏/アイアイジェイテクノロジー)

若年層を対象メンバーとして、技術習得向上のための研鑽の場、人脈作りの場を提供する。また、JNSA運営への積極的な関与、会員間の交流の強化、活動活性化のための情報流通強化、セキュリティ業界や社会への貢献などを目的とする。

## 【JNSAラボネットWG】

(リーダー:坂本慶 氏/ディアイティ)

ワーキンググループの活動における、実環境を使った技術検証などが円滑に行えるように、検証環境の設計と構築を議論し、実際の環境構築を行う。またU40部会のWG



として、本活動を通して若手メンバーのスキル向上を図る。 予定成果物は、検証環境の提供。

### 【勉強会企画検討WG】

(リーダー: 嘉津義明 氏/シマンテック)

若年層の知識および技術向上のため、メンバー向けの 勉強会を企画検討し、講師手配などを行なう。これによ り外部との人脈作りおよび運営面についてのスキルアップ も図る。また、良い企画があれば、JNSA会員向けのセミ ナーとして推薦する。

## 6. ユーザー部会 ※新設

(部会長:未定)

JNSA参加企業は、ISMSやPマークを取得し、かつ情報セキュリティベンダーとして、セキュリティビジネスを行っている。しかしながら、自社の企業内ユーザー(例えば、営業、エンジニア、管理系部署)の情報セキュリティモラルが上がっていないことも事実である。

このため、今年度は、成功失敗の事例紹介、テーマ毎の研究会を行い、効果的な企業内ユーザーのモラル醸成方法、効率的な情報セキュリティ運用方法を模索していくような活動を行う予定である。

## 7. 西日本支部

(支部長:井上陽一氏/JNSA顧問)

JNSA西日本支部は関西に拠点を置くメンバー企業の協 賛の下、西日本におけるネットワーク社会のセキュリティレベルの維持・向上並びに、日々高まる情報セキュリティへのニーズに応えるべく、先進性を追及すると共に、質の高いサービスを提供する事を目的として活動する。今年度も引き続き関西方面でのセキュリティ啓発セミナーを中心に活動を行う。

## 【企画運営WG】

(リーダー:井上陽一氏/JNSA顧問)

中小企業の情報セキュリティ水準の底上げ、中小企業の負担軽減に繋がる方策について、情報セキュリティチェックシートWGと共同して明示・PDCA定着化のための啓発を行うと共に、近畿経済産業局と協働して地域における産官共同の基盤づくりを行う。予定成果物として、情報セキュリティチェックシートWGと共同して、チェックシート作成・解析結果を報告書としてまとめる。

### 【情報セキュリティチェックシートWG】

(リーダー: 嶋倉文裕 氏/富士通関西中部ネットテック)

情報セキュリティチェックシートを使用することにより、中堅・中小企業の経営者(経営層)が気付きを超えた企業

価値向上の視点で、自社のセキュリティ対策の現状を認識 し、対応して頂く上でのガイダンスとなるような情報セキュ リティチェックシートの作成を目標として活動する。

予定成果物は、チェックシートおよびアンケート解析結 果報告。

## 情報セキュリティ教育事業者連絡会(ISEPA)

(代表: 与儀大輔 氏/ラック)

連絡会各会員団体の運営する資格の位置付け、キャリアパスに対する共通認識の提示、施策提案、さらには各種教育機関との連携によるコンテンツの共同利用など、情報セキュリティ人材育成に関する様々な情報を社会に広く提供し、人材育成の拡大に向けた様々な取り組みを推進する活動を行う。

## 【イベントWG】

(リーダー: 杉本毅 氏/ITプロフェッショナル・グループ)

ホームページ、各種イベント、あるいは各種の広報活動により、ISEPA情報セキュリティ教育事業者連絡会の活動や取り組みを、社会に広く紹介していく。

## 【スキルWG】

(リーダー: 衣川俊章 氏/ITプロフェッショナル・グループ) 各団体の資格試験の内容を体系的に整理し、各資格試 験の相関図の作成やキャリアパスを提示し、情報セキュリ ティの分野で求められる人材像を具体的に示していく。

## 【相互認証WG】

(リーダー:関取嘉浩氏/NRIセキュアテクノロジーズ)

各事業者間の相互認証の可能性の検討を行なう。また、必要に応じてWGを開催し、相互認証の可能性について検討していく。認定資格取得者数の調査も行う予定。

## 日本セキュリティオペレーション事業者協議会 (ISOG-J)

(代表:武智洋 氏/ラック)

セキュリティオペレーション技術向上、オペレータ人材育成、および関係する組織・団体間の連携を推進する事業を実施することにより、セキュリティオペレーションサービスの普及とサービスレベルの向上を促し、安全で安心して利用できるIT環境実現に向けて寄与する目的として発足。JNSA下部組織として、ガイドラインの策定や技術向上に向けた検討、普及啓発活動を行う。

## 4. JNSA 役員一覧 2009年3月現在

会 長 佐々木良一 東京電機大学 教授 副会長 高橋 正和 マイクロソフト株式会社 副会長 大和 敏彦 株式会社ブロードバンドタワー

## 理 事(50音順)

足立 修 株式会社シマンテック 池田 修一 NTT コミュニケーションズ株式会社 後沢 忍 三菱電機株式会社 情報技術総合研究所 遠藤 直樹 東芝ソリューション株式会社 大坪 武憲 新日鉄ソリューションズ株式会社 勝見 勉 株式会社情報経済研究所 川上 博康 セコムトラストシステムズ株式会社 後藤 和彦 株式会社大塚商会 小屋 晋吾 トレンドマイクロ株式会社 大日本印刷株式会社 佐藤 邦光 下村 正洋 株式会社ディアイティ 立石 和義 NTT アドバンステクノロジ株式会社 橘 伸俊 株式会社ネットマークス 玉井 節朗 株式会社IDGジャパン 西尾 秀一 株式会社NTTデータ 西本 逸郎 株式会社ラック 野々下幸治 マカフィー株式会社 森田 次朗 インスパイアー株式会社 日暮 則武 東京海上日動火災保険株式会社 山野 修 RSAセキュリティ株式会社

株式会社アイアイジェイテクノロジー

## 幹 事(50 音順)

吉原 勉

株式会社エス・エス・アイ・ジェイ 磯崎 洋二 伊藤 利昭 F5 ネットワークスジャパン株式会社 大島 耕二 株式会社ネットマークス 勝見 勉 株式会社 情報経済研究所 株式会社アイアイジェイテクノロジー 加藤 雅彦 北折 昌司 東芝ソリューション株式会社 郷間佳市郎 株式会社日立情報システムズ 久手堅憲之 シスコシステムズ合同会社 小屋 晋吾 トレンドマイクロ株式会社 佐藤 克哉 NTTコミュニケーションズ株式会社 佐藤 憲一 株式会社大塚商会 佐藤 徹次 ネットワンシステムズ株式会社 株式会社ブロードバンドセキュリティ 佐藤 友治 下村 正洋 株式会社ディアイティ 高橋 正和 マイクロソフト株式会社

近田 恭之 大日本印刷株式会社 中川 一之 NTTアドバンステクノロジ株式会社 中島 智 東芝 IT サービス株式会社 成澤 晃一 凸版印刷株式会社 西本 逸郎 株式会社ラック 野々下幸治 マカフィー株式会社 長谷 俊英 東京海上日動火災保険株式会社 馬場 重通 インスパイアー株式会社 平田 敬 株式会社ブリッジ・メタウェア 蛭間 久季 株式会社アークン 二木 真明 住商情報システム株式会社 松崎 秀雄 キヤノンマーケティングジャパン株式会社 三浦 一樹 日本電気株式会社 村上 智 株式会社シマンテック 安田 直 株式会社ディアイティ/ JNSA 主席研究員 富士通エフ・アイ・ピー株式会社 油井 秀人 与儀 大輔 株式会社ラック 吉丸 成人 監査法人トーマツ

株式会社IDGジャパン

## 監事

玉井 節朗

土井 充 公認会計士 土井充事務所

### 特別顧問

石田 晴久 サイバー大学 IT 総合学部 学部長

### 顧問

井上 陽一 中央大学 教授 今井 秀樹 北沢 義博 霞が関法律会計事務所 弁護士 武藤 佳恭 慶応義塾大学 教授 前川 徹 サイバー大学 教授 村岡 洋一 早稲田大学 教授 東京電機大学 教授 安田 浩 山口 英 奈良先端科学技術大学院大学 教授 吉田 眞 東京大学 教授

## 事務局長

下村 正洋 株式会社ディアイティ



## 5. 会員企業一覧 (2009年3月13日現在 207社 50音順)

## 【あ】

(株)アーク情報システム

(株)アークン

RSAセキュリティ(株)

(株)アイアイジェイ テクノロジー

アイエックス・ナレッジ(株)

(株)ITプロフェッショナル·グループ

(株)アイ・ティ・フロンティア

(株) IDGジャパン

(株)アイティーブレーン

(株)アイテクノ

アイネット・システムズ (株)

(株)アイ・ビー・イー・ネット・タイム

(株) I Pイノベーションズ

アイマトリックス (株)

(株)アクシオ

あずさ監査法人

(株)網屋

(株)アルテミス

(株)アルファシステムズ

アルプスシステムインテグレーション(株)

イー・ガーディアン (株)

(株) ISAO

伊藤忠テクノソリューションズ (株)

学校法人 岩崎学園

(株)インストラクション

インスパイアー(株)

(株) インターネットイニシアティブ

(株)インテックシステム研究所

(株) インテリジェントウェイブ

インフォコム (株)

(株)インフォセック

ヴァイタル・インフォメーション (株)

ウェブセンス・ジャパン(株)

ウェブルート・ソフトウェア (株)

AT&Tジャパン(株)

エクスジェン・ネットワークス (株)

(株)エス・エス・アイ・ジェイ

(株)エス・シー・ラボ

SBIネットシステムズ(株)

NR I セキュアテクノロジーズ(株)

エヌアイシー・ネットシステム (株)

NECソフト(株)

NECネクサソリューションズ (株)

NTTアドバンステクノロジ(株)

NTTコミュニケーションズ (株)

エヌ・ティ・ティ・コムウェア (株)

エヌ・ティ・ティ・コムチェオ (株)

NTTラーニングシステムズ (株)

NTTコムテクノロジー(株)

(株) NTTデータ

(株) NTTデータCCS

(株)エネルギア・コミュニケーションズ

F5ネットワークスジャパン(株)

オー・エイ・エス (株)

(株)オーク電子

(株)大塚商会

(株)オレンジソフト

## 【か】

(株) Kaspersky Labs Japan

兼松エレクトロニクス (株)

関電システムソリューションズ (株)

キヤノンITソリューションズ(株)

キヤノンマーケティングジャパン(株)

九電ビジネスソリューションズ (株)

京セラコミュニケーションシステム(株)

クオリティ(株)

グロヴァレックス(株) New



(株)グローバルエース

グローバルサイン(株)

グローバルセキュリティエキスパート(株)

(株)ケーケーシー情報システム

(株)コネクタス

コンピュータエンジニアリングサービス(株)

## 【さ】

サードネットワークス (株)

サイバーエリアリサーチ (株)

サイバーソリューション (株)

(株)サイロック

サン・マイクロシステムズ(株)

(株)シー・エス・イー

(株) JMCリスクソリューションズ

ジェイズ・コミュニケーション(株)

(株) JTS

JPCERTコーディネーションセンター

シスコシステムズ合同会社

システム・エンジニアリング・ハウス (株)

(株)シマンテック

(株) ジャパンネット銀行

寿限無(株)

(株)情報経済研究所

(株)情報数理研究所

新日鉄ソリューションズ (株)

新日本有限責任監査法人

(株)ステラクラフト

住商情報システム(株)

スミセイ情報システム(株)

(株) セキュアブレイン

セキュリティ・エデュケーション・アライアンス・ジャパン

セコム (株)

セコムトラストシステムズ (株)

(株)セラク

セントラル短資オンライントレード(株)

ソニー (株)

ソフォス (株)

ソフトバンク (株)

ソフトバンク・テクノロジー (株)

ソフトバンクBB (株)

ソラン (株)

(株) ソリトンシステムズ

(株)損保ジャパン・リスクマネジメント

## 【た】

大興電子通信(株)

大日本印刷(株)

(株)大和総研

(株)タクマ

チェックポイントソフトウェアテクノロジーズ (株)

TIS(株)

(株)ディアイティ

デジタルアーツ (株)

(株)電通国際情報サービス

監査法人トーマツ

東京エレクトロン デバイス(株)

東京海上日動火災保険(株)

東京日産コンピュータシステム(株)

東芝 IT サービス (株)

東芝ソリューション(株)

ドコモ・システムズ (株)

凸版印刷(株)

トップレイヤーネットワークスジャパン(株)

トリップワイヤ・ジャパン (株)

トレンドマイクロ(株)

## 【な】

(株)ニコンシステム

西日本電信電話(株)

日信電子サービス(株)

日本アイ・ビー・エム (株)

日本アイ・ビー・エム システムズエンジニアリング(株)

日本SGI(株)

日本オラクル(株)

日本クロストラスト(株)

日本CA(株)

(株)日本システムディベロップメント

日本セーフネット(株)

日本電気(株)

日本電信電話(株)

日本ビジネスコンピューター(株)

日本ヒューレット・パッカード(株)

日本ベリサイン(株)

(株) ネットマークス

ネットワンシステムズ (株)

(株)野村総合研究所

## 【は】

パスロジ(株)

パナソニック電工(株)

バリオセキュア・ネットワークス (株)

(株)ハンモック

(株)日立システムアンドサービス

(株)日立情報システムズ

(株)日立製作所

日立ソフトウェアエンジニアリング(株)

(株) PFU

ヒューベルサービス(株) New



富士ゼロックス(株)

富士ゼロックス情報システム(株)



富士通(株)

富士通エフ・アイ・ピー (株)

(株)富十通エフサス

富士通関西中部ネットテック(株)

(株)富士通ソーシアルサイエンスラボラトリ(富士通SSL)

(株)富士通ビジネスシステム

富士電機アドバンストテクノロジー(株)

扶桑電通(株)

フューチャーアーキテクト(株)

(株) フューチャーイン

(株)ブリッジ・メタウェア

(株) ブロードバンドセキュリティ

(株) ブロードバンドタワー

(株) プロティビティジャパン

## 【ま】

(株)マイクロ総合研究所

マイクロソフト (株)

マカフィー (株)

みずほ情報総研(株)

三井物産セキュアディレクション (株)

(株)三菱総合研究所

三菱総研DCS(株)

三菱電機(株)情報技術総合研究所

三菱電機情報ネットワーク(株)

(株)メトロ

(株) MONET New



## (や)

ユーテン・ネットワークス (株)

(株) ユービーセキュア

## [5]

(株)楽堂 New



(株) ラック

LANDesk Software (株)

リコー・ヒューマン・クリエイツ (株)

(有)ロボック

## 【わ】

(株) ワイ・イー・シー

(株)ワイズ

他1社

## 【特別会員】

特定非営利活動法人 アイタック

韓国電子通信研究院

社団法人 コンピュータソフトウェア協会

ジャパン データ ストレージ フォーラム

財団法人 ソフトピアジャパン

データベース・セキュリティ・コンソーシアム

特定非営利活動法人デジタル・フォレンジック研究会

電子商取引安全技術研究組合

東京大学大学院 工学系研究科

社団法人 日本インターネットプロバイダー協会

社団法人 日本コンピュータシステム販売店協会

特定非営利活動法人 日本セキュリティ監査協会

有限責任中間法人 日本電子認証協議会

## 6. JNSA 年間活動 (2008 年度)

4月				
4 月	4月23~24日	「RSA Conference Japan 2008」後援		
5月	5月1日	第1回幹事会		
373	5月14日	2008年度理事会 (虎ノ門パストラル)		
	5月26~27日			
6月	6月5~7日	「第 12 回サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム」後援  ■		
073	6月9~13日	「R 12 回り 1 ハー 犯罪に関する日 展 フンホン ワム」 後後 「Interop Tokyo 2008」 後援		
	6月13日	2007 年度 WG 活動報告会 (ベルサール八重洲)		
	6月13日	2008 年度総会 (ベルサール神田)		
	6月18日	「平成20年度情報モラル啓発セミナー」(兵庫会場)後援		
7月	7月1~2日	「SANS Future Visions 2008 Tokyo 」後援		
' '	7月3日	「PKI Day 2008」セミナー (東京ウィメンズプラザ)		
	7月4~5日	「WASForum Conference2008 後援		
	7月8日	第2回幹事会		
	7月9日	「2008 年度 情報セキュリティ監査シンポジウム in Tokyo」後援		
	7月10~12日	「沖縄 ICT フォーラム 2008」後援		
	7月16~18日	「自治体総合フェア 2008」協賛		
	7月17日	「平成 20 年度情報モラル啓発セミナー」(三重会場)後援		
	7月22~24日	「ワイヤレスジャパン 2008」後援		
	7月24日	リコー情報セキュリティ強化セミナー「今、再び考える『情報セキュリティ』」後援		
8月	8月13~17日	「セキュリティ&プログラミング・キャンプ 2008」後援		
	8月22日	「被害調査 WG・リテラシーベンチマーク作成WG合同セキュリティ対策セミナー」(メルノ	パルク東京)	
	8月25日	「2008 年度 全国縦断情報セキュリティ監査セミナー」(札幌会場) 後援		
	8月26日	臨時理事会 (サンルートプラザ新宿)		
	8月26日	第3回幹事会		
	8月29日	「CompTIA Breakaway in Japan」後援		
9月	9月26日	「平成 20 年度情報モラル啓発セミナー」(北海道会場)後援	2008年6月~	
	9月26日	「2008 年度 全国縦断情報セキュリティ監査セミナー」(高松会場)後援	2009年3月	
	9月9~10日	「SCM フォーラム 2008」協賛	「インターネット	
10 月	10月2日	「2008 年度 全国縦断情報セキュリティ監査セミナー」(仙台会場)後援	安全教室」開催	
	10月7日	第4回幹事会		
	10月21日	「2008 年度 全国縦断情報セキュリティ監査セミナー」(福岡会場)後援		
	10月23~25日	「モノづくりフェア 2008」協賛	5.7	
44 🛭	10月31日	「第1回全国情報セキュリティ啓発シンポジウム やろっさ『インターネット安全教室』in.	ツくい	
11 月	11月11日	「2008 年度 全国縦断情報セキュリティ監査セミナー」(大阪会場)後援		
	11月11日 11月25~28日	「H@cker Halted Japan Visions 2008」後援		
		「Internet Week 2008」後援		
	11月26日	「中小企業情報セキュリティ対策支援セミナー」(大阪国際会議場) 「CMS Conference 2008」後援		
12月	12月3日	1月29日 「第 21 回秋の学術講演会〜インターネットの匿名性を考える〜」後援 2月3日 第 5 回幹事会		
12 /3		12月12~14日 「かごしま IT フェスタ 2008」後援 12月15~16日 「デジタル・フォレンジック・コミュニティ 2008 in TOKYO」後援		
	12月16日			
	12月17~18日	「NSF 2008 (NetworkSecurityForum2008)」(ベルサール八重洲)		
	12月19日	·		
1月	1月23日			
	1月28~29日			
2月	2月4~6日			
	2月6日			
	2月13日	「2008 年度 全国縦断情報セキュリティ監査セミナー」(富山会場)後援		
	2月19日	「HOSTING-PRO 2009」後援		
	2月20日	拡大幹事会		
3月	3月5日			
	3月7日	セーフティコンサート 「安全・安心ふれあいフェスタ 2009」 後援		
	3月13日	第6回幹事会		
	3月17日	「THE SECURITY INSIGHT 2009」後援		

- ★ JNSA 活動スケジュールは、http://www.jnsa.org/aboutus/schedule.html に掲載しています。
- $\bigstar$  JNSA 部会、WG の会合議事録は会員情報のページ http://www.jnsa.org/member/index.html に掲載しています。(JNSA 会員限定です)



## 7. JNSA について

## ■会員の特典

- 1. 各種部会、ワーキンググループ・勉強会への参加
- 2. セキュリティセミナーへの会員料金での参加および 主催カンファレンスへの招待
- 3. 発行書籍・冊子の配布
- 4. JNSA 会報の配布 (年 3 回予定)
- 5. メーリングリスト及び Web での情報提供
- 6. 活動成果の配布
- 7. イベント出展の際のパンフレット配付
- 8. 人的ネットワーク拡大の機会提供
- 9. 調査研究プロジェクトへの参画

## 8. お問い合せ

## 特定非営利活動法人

## 日本ネットワークセキュリティ協会 事務局

〒 105-0003 東京都港区西新橋 1-22-12 JC ビル 3F

TEL: 03-3519-6440 TEL: 03-3519-6441 E-Mail: sec@jnsa.org URL: http://www.jnsa.org/

## 西日本支部

〒 532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島 5-14-10 カトキチ新大阪ビル(株) ディアイティ内

TEL: 06-6886-5540

## 入会方法

Web の入会申込フォームにて Web からお申し込み、または、書面の入会申込書を FAX・郵送にてお送り下さい。折り返し事務局より入会に関する御連絡をいたします。

## ■ JNSA 事務局移転のお知らせ■

JNSA 事務局は、2008年9月に下記住所に移転致しました。

〒 105-0003 東京都港区西新橋 1-22-12 JC ビル 3F Tel: 03-3519-6440 Fax: 03-3519-6441

## JNSA Press vol.25

2009 年 3 月 27 日発行 ©2009 Japan Network Security Association

### 発行所

特定非営利活動法人 日本ネットワークセキュリティ協会 (JNSA) E-Mail: sec@jnsa.org URL: http://www.jnsa.org/



プリンテックス株式会社



NPO 日本ネットワークセキュリティ協会 Japan Network Security Association

〒105-0003 東京都港区西新橋1-22-12 JCビル 3F TEL 03-3519-6440 FAX 03-3519-6441 E-mail: sec@jnsa.org URL: http://www.jnsa.org/

西日本支部

〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島5-14-10 カトキチ新大阪ビル (株) ディアイティ内 TEL 06-6886-5540